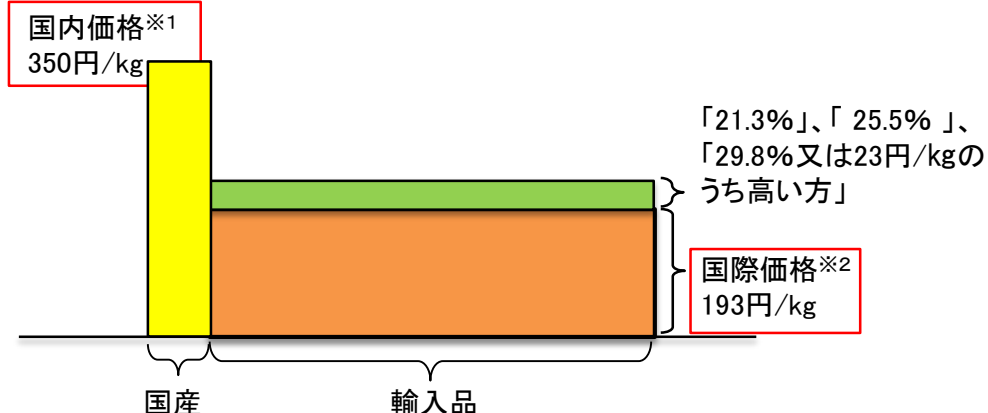


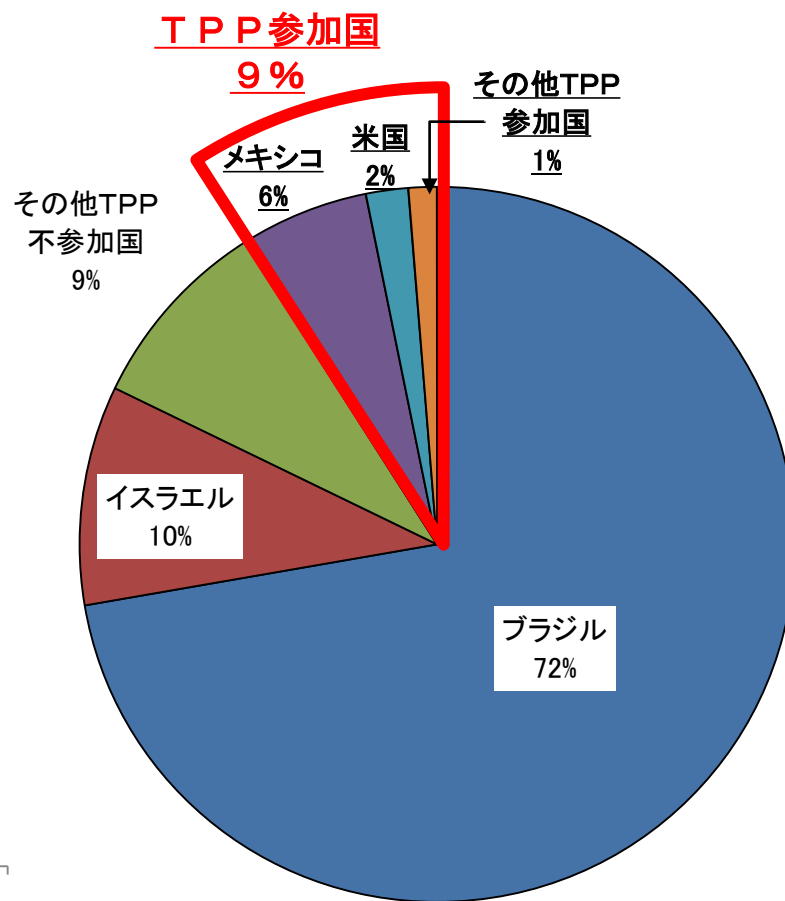
オレンジ果汁について

- 現行「21.3%」、「25.5%」、「29.8% 又は 23円/kgのうち高い方」の関税を、毎年同じ割合で削減し、6年目又は11年目に関税撤廃。
- オレンジ果汁は、輸入品の割合が既に需要量の9割を超えており、国産みかん果汁は高品質な希少的商材として差別化が図られている。
- 輸入量の大部分はブラジルが占めており、TPP参加国からの輸入は1割以下である。

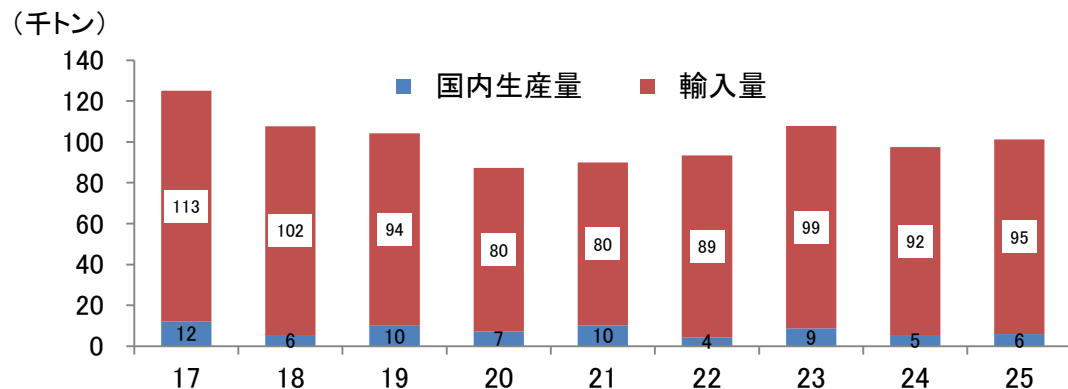
○ 国境措置



○ 国別輸入割合(直近4カ年平均)



○ みかん・オレンジ(果汁)の国内生産量及び輸入量の推移



資料: 国内生産量: うんしゅうみかん1/5濃縮果汁生産量(農林水産省調べ)
 輸入量: オレンジジュース輸入量(財務省貿易統計)

オレンジ(果汁)の国別輸入割合(財務省貿易統計)

りんご(生果)

○ りんごの国内生産量は約74万トン、輸入量は約2千トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は0.3%とごくわずかとなっている。

○ りんごの主な輸入先はニュージーランドであり、輸入全体のほぼ100%を占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
741.7千トン(りんご生果) (生産量シェア)	青森県 (56%)	長野県 (21%)	山形県 (6%)

出典:生産出荷統計

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
2.3千トン(りんご生果) (輸入量シェア)	ニュージーランド [*] (100%)	-	-

出典:貿易統計

【輸出量】

輸出量	主な輸出先国(2013年)		
19.4千トン(りんご生果) (輸出量シェア)	台湾 (86%)	香港 (10%)	タイ (1%)

出典:貿易統計

【価格】

価格の推移(円/kg)					
年	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	268	267	323	264	295
国際価格	222	178	212	216	217

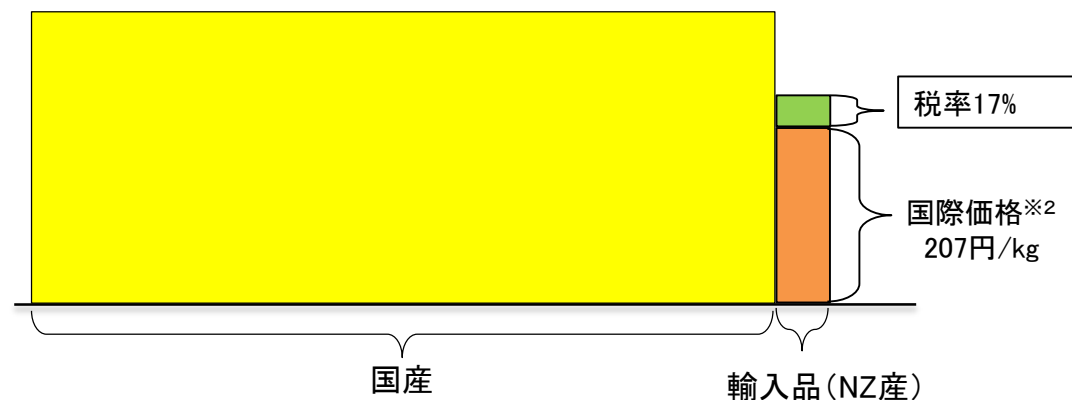
※国内価格は、東京都中央卸売市場りんご価格

※国際価格は、財務省貿易統計(りんご(生果)CIF価格)

【国境措置】

関税率	国境措置の概要
17%	-

国内価格^{※1}
281円/kg



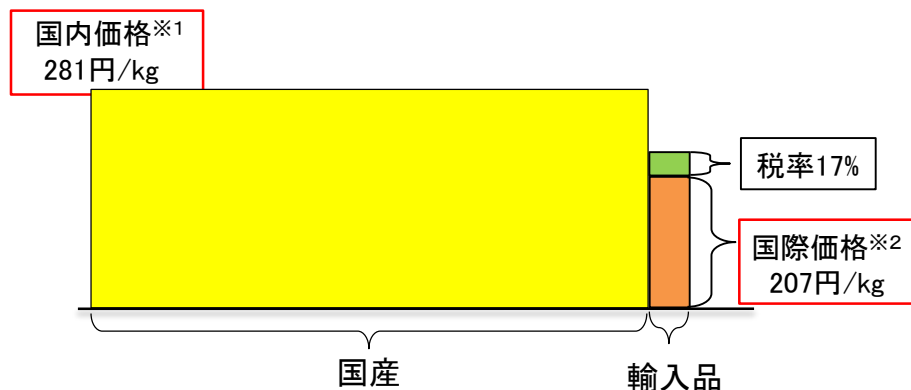
※1:国内価格は東京都中央卸売市場りんご価格H22~H25の4年平均

※2:りんごのCIF価格(2010年~2013年の4年平均)

りんご(生果)について

- 現行17%の関税を、初年度12.7%とし、以降毎年同じ割合で削減し、11年目に撤廃。
- 国産りんごは、我が国の主要な輸出品目であり、品質面で国際的に高い競争力を有している。
- 輸入量は、我が国の端境期である夏期にNZからの2千トン程度にとどまっており、国内供給量に占める輸入の割合は0.3%とごくわずかとなっている。

○ 国境措置



※1: 国内価格は東京都中央卸売市場りんご価格H22～H25の4年平均
 ※2: りんごのCIF価格(2010年～2013年の4年平均)

○ りんご輸出量の推移

	(千トン)		
年	24	25	26
りんご輸出量	9.1	19.4	24.1

資料: 財務省貿易統計

○ 国産りんご輸出に向けた取組



タイ高級スーパーでの市場調査



台湾の市場で販売される国産りんご

○ りんご(生果)の国内生産量及び輸入量 (千トン)

年	24	25
国内生産量	793.8	741.7
輸入量	1.9	2.3

※ 輸入のほとんどは、NZ

資料: 国内生産量: りんご収穫量(果樹生産出荷統計)

輸入量: 貿易統計

りんご(果汁)

- りんご果汁の国内生産量は約1万3千トン、輸入量は約8万7千トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は約9割となっている。
- りんご果汁の主な輸入先は中国であり、輸入全体の7割超を占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
12.6千トン(果汁) (生産量シェア)	—	—	—
(参考) 741.7千トン(りんご生果) (生産量シェア)	青森県 (56%)	長野県 (21%)	山形県 (6%)

出典:園芸作物課調べ(果汁)
果樹生産出荷統計(りんご(生果))

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
86.9千トン(りんご果汁) (輸入量シェア)	中国 (73%)	オーストリア (8%)	ブラジル (7%)

出典:貿易統計

【価格】

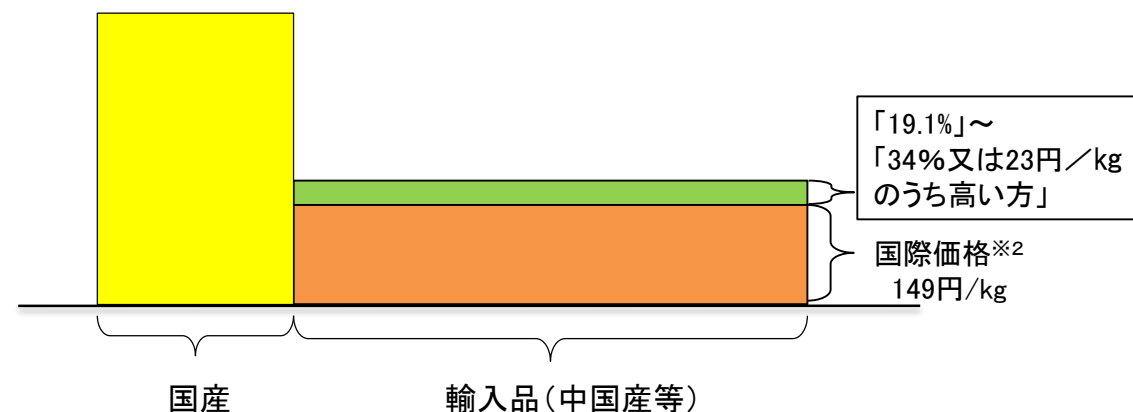
価格の推移(円/kg)					
年	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	—	—	—	—	—
国際価格	110	151	163	174	165

※国際価格は、財務省貿易統計(りんご濃縮果汁CIF価格)

【国境措置】

関税率	国境措置の概要
「19.1%」、「23%」、「29.8%」、「34%又は23円/kgのうち高い方」	—

国内価格※1
355円/kg



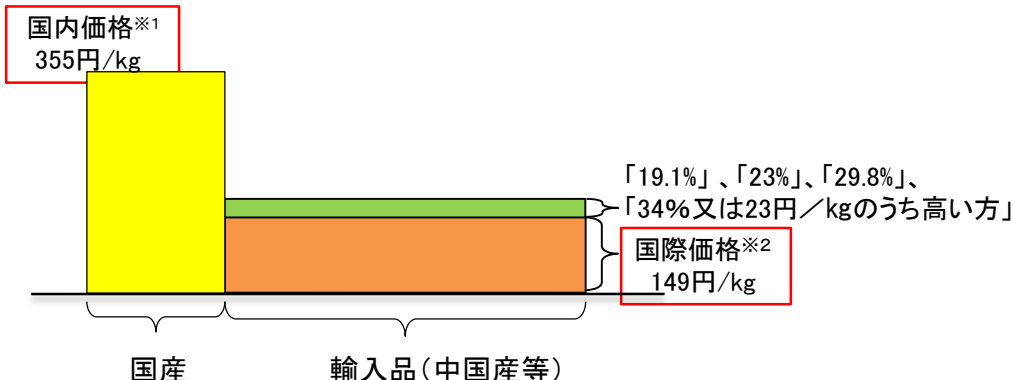
※1:国内価格は推計値(農林水産省農産部調べ)

※2:りんご濃縮果汁のCIF価格(2010年～2013年の4年平均)

りんご果汁について

- 現行「19.1%」、「23%」、「29.8%」、「34% 又は 23円/kgのうち高い方」の関税を、毎年同じ割合で削減し、8年目又は11年目に関税撤廃。
- りんご果汁は、輸入品の割合が既に需要量の8割を超えており、国産りんご果汁は高品質な希少な商材として差別化が図られている。
- 輸入量の大部分は中国が占めており、TPP参加国からの輸入は1割以下である。

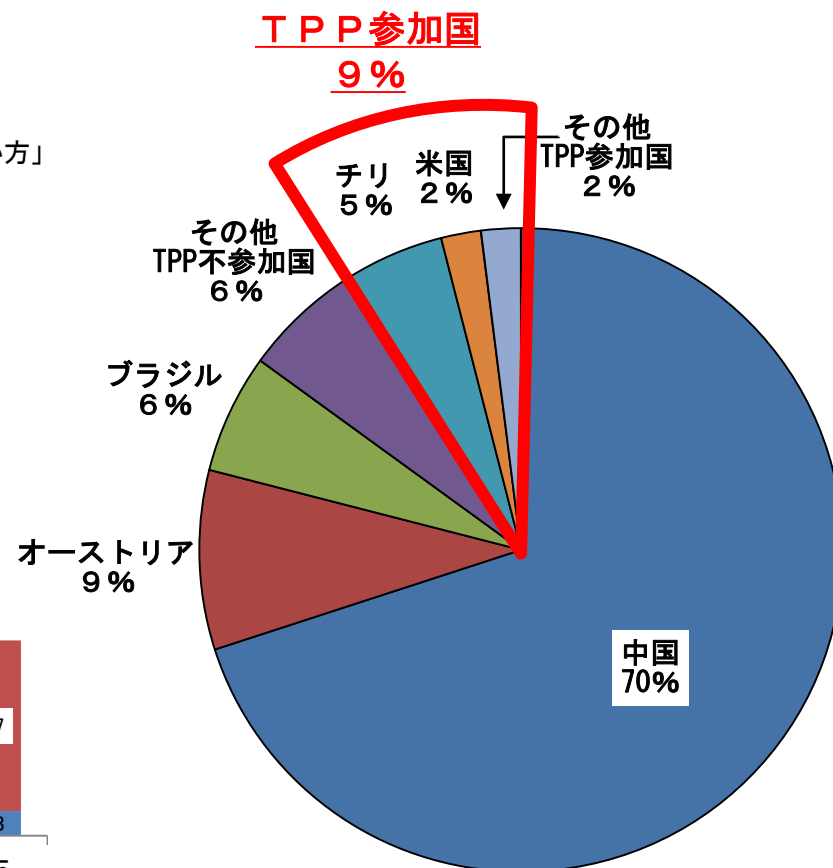
○ 国境措置



※1: 国内価格は推計値(農林水産省調べ)

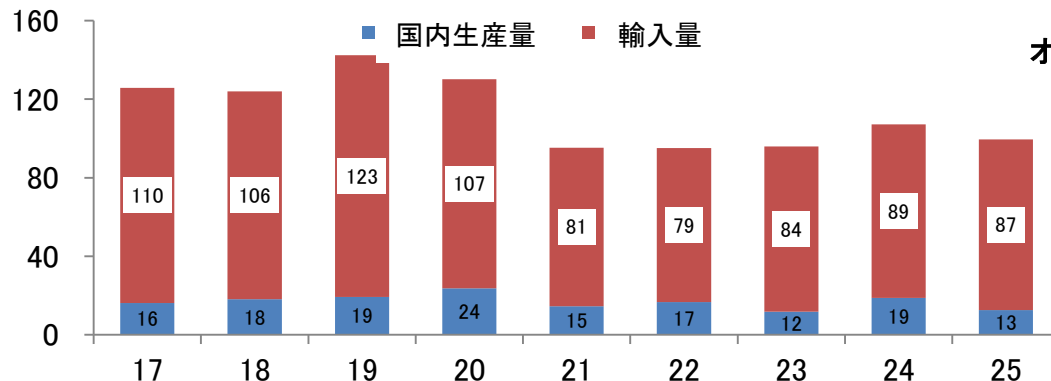
※2: りんご濃縮果汁のCIF価格(2010年～2013年の4年平均)

○ 国別輸入割合(直近4カ年平均)



○ りんご(果汁)の国内生産量及び輸入量の推移

(千トン)



資料: 国内生産量: りんご1/5濃縮果汁生産量(農林水産省調べ)

輸入量: りんごジュース輸入量(財務省貿易統計)

りんご果汁の国別輸入割合(財務省貿易統計)

さくらんぼ

○ さくらんぼの国内生産量は約2万トン、輸入量は約7千トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は30%程度となっている。

○ さくらんぼの主な輸入先は米国であり、輸入全体のほぼ100%を占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
18.1千トン(さくらんぼ生果) (生産量シェア)	山形県 (75%)	北海道 (8%)	その他 (18%)

【輸入量】

出典:生産出荷統計

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
7.4千トン(さくらんぼ生果) (輸入量シェア)	米国 (99%)	ニュージーランド [*] (0%)	豪州 (0%)

出典:貿易統計

【価格】

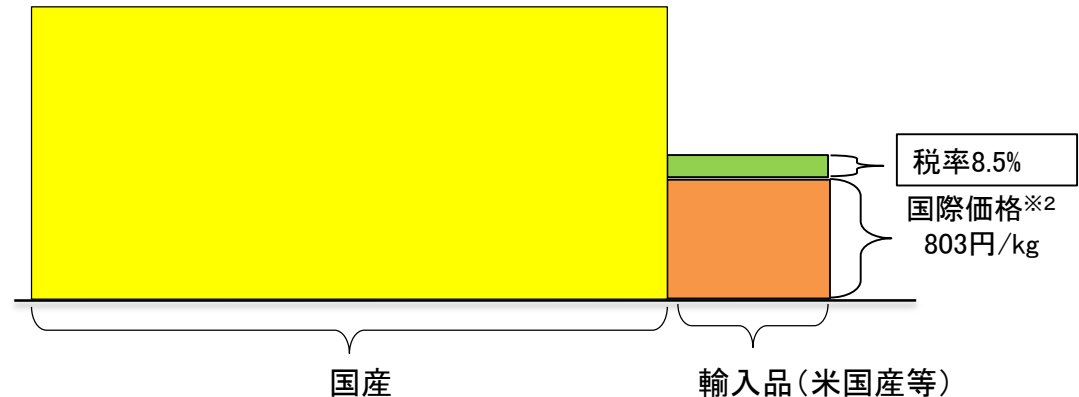
価格の推移(円/kg)					
年	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	1,464	1,435	1,957	1,880	1,816
国際価格	751	804	725	933	1,038

※国内価格は、東京都中央卸売市場市場統計情報の国産品価格
 ※国際価格は、財務省貿易統計(さくらんぼ(生果)CIF価格)

【国境措置】

関税率	国境措置の概要
8.5%	—

国内価格※1
1,684円/kg



※1:国内価格は東京都中央卸売市場おうとう価格H22～H25の4年平均
 ※2:おうとうのCIF価格(2010年～2013年の4年平均)

さくらんぼ(生果)について

- 現行8.5%の関税を、初年度4.2%とし、以降毎年同じ割合で削減し、6年目に撤廃。
- 現行の関税率が8.5%と既に低い水準となっている中で、国産さくらんぼは、味や外観の良さから贈答用など高級品として差別化が図れている。
- 輸入さくらんぼの需要量は毎年1万トン前後でほぼ一定であり、輸入価格が下がった際にも輸入量は増えていない。

○ 国産価格と輸入価格の比較

(円/kg)

年	22	23	24	25	26
国産価格	1,415	1,412	1,762	1,816	1,777
輸入価格	751	804	725	933	1,038

※1: 国産価格は東京都中央卸売市場のさくらんぼの価格

※2: 輸入価格はさくらんぼ(生果)のCIF価格

○ ビング種と佐藤錦の果皮の比較



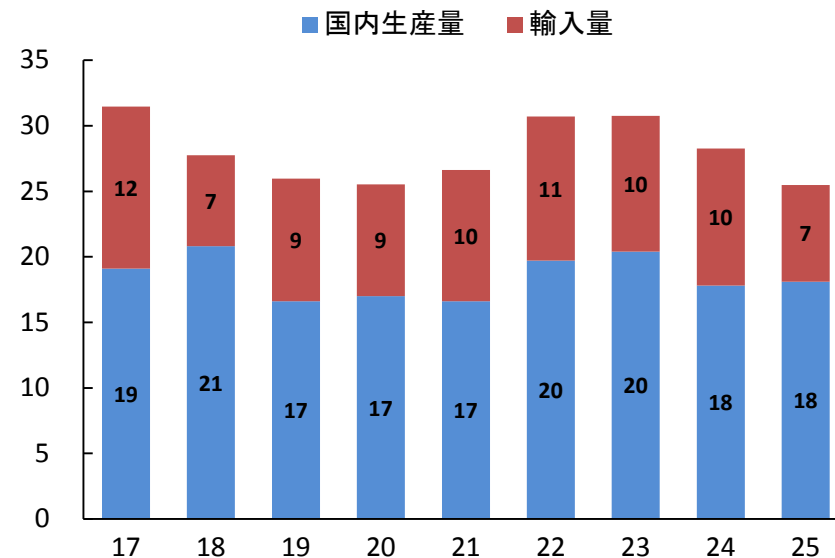
ビング種



佐藤錦

○ さくらんぼ(生果)の国内生産量及び輸入量の推移 (平成17～25年)

(千トン)



輸入CIF価格
(円/kg)

849	1,024	858	871	739	751	804	725	933
-----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※: 国内生産量: さくらんぼ収穫量(果樹生産出荷統計)

輸入量: さくらんぼ輸入量(財務省貿易統計)

ぶどう(生果)

- ぶどうについては、国内産のぶどうの出荷時期に当たる3月～10月については17%、その他の時期である11月～2月については7.8%の税率を適用している。
- ぶどうの国内生産量は約19万トン、ぶどう(生果)の輸入量は約2万トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は約1割である。ぶどうの主な輸入先はチリ(55%)、米国(43%)であり、二ヶ国で全体の約97%を占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
189.7千トン(ぶどう生果) (生産量シェア)	山梨県 (25%)	長野県 (14%)	山形県 (9%)

出典:果樹生産出荷統計

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
22.8千トン(ぶどう生果) (輸入量シェア)	チリ (55%)	米国 (43%)	メキシコ (3%)

出典:貿易統計

【価格】

価格の推移(円/kg)

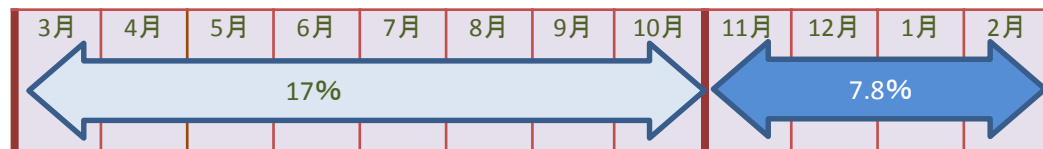
年	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	790	783	719	767	803
国際価格	218	227	235	264	280

※国内価格は、東京都中央卸売市場ぶどう価格

※国際価格は、財務省貿易統計(ぶどう生果)CIF価格)

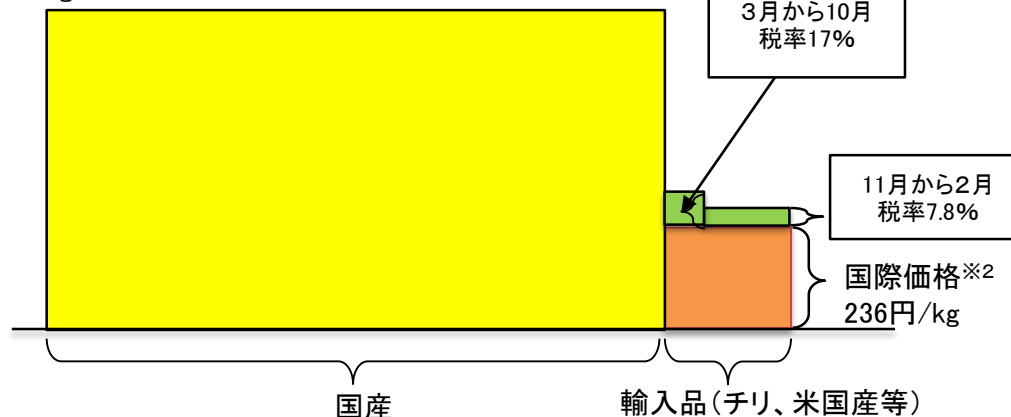
【国境措置】

関税率	国境措置の概要
3月から10月 17% 11月から2月 7.8%	—



国内価格※1

765円/kg



国産

輸入品(チリ、米国产等)

※1:国内価格は東京都中央卸売市場ぶどう価格H22～H25の4年平均

※2:国際価格はぶどう(生果)のCIF価格(2010年～2013年の4年平均)

ぶどうについて

- 現行7.8%又は17%の関税を即時撤廃。
- 国産ぶどうは、「巨峰」、「ピオーネ」、「シャインマスカット」等、味や外観等が極めて優れており、産地ごとにブランドが確立している。
- このため、国産ぶどうは、輸入ぶどうの3倍以上の価格であるにもかかわらず、国内需要量の9割を占めている。

○ 国産価格と輸入価格の比較

(円/kg)

年	22	23	24	25	26
国産価格	788	781	714	768	791
輸入価格	218	227	235	264	280

※1:国産価格は東京都中央卸売市場のぶどうの年平均価格

※2:輸入価格はぶどう(生果)のCIF価格

○ 輸入ぶどう(レッドグローブ)と国産ぶどう(巨峰・シャインマスカット)



(主な出回り時期:2月～5月)

レッドグローブ
(チリ産)



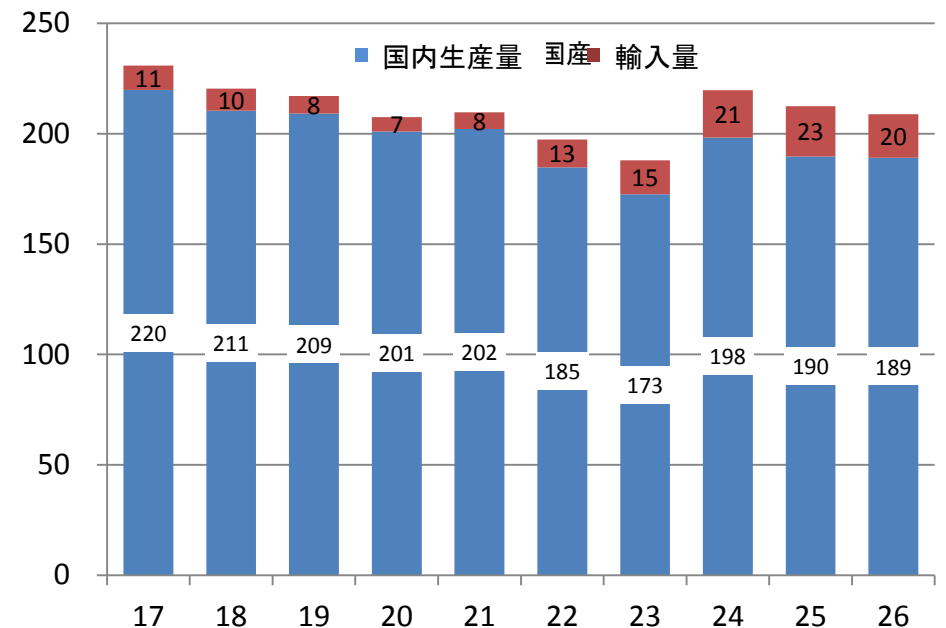
(主な出回り時期:7月～10月)

左:巨峰
右:シャインマスカット



○ ぶどうの国内生産量及び輸入量の推移 (平成17～26年)

(千トン)



輸入CIF価格
(円/kg)

199	201	240	243	212	218	227	235	264	280
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※:国内生産量:果樹生産出荷統計

輸入量:財務省貿易統計

パインアップル(生果)

○ パインアップル(生果)の国内生産量は約7千トン、輸入量は約18万1千トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は約96%となっている。

○ パインアップル(生果)の主な輸入先はフィリピンであり、輸入全体の99%を占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
6.6千トン(パインアップル生果) (生産量シェア)	沖縄県 (100%)	—	—

出典：園芸作物課調べ

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
181.2千トン(パインアップル生果) (輸入量シェア)	フィリピン (99%)	台湾 (0%)	コスタリカ (0%)

出典：貿易統計

【価格】

価格の推移(円/kg)					
	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	171	205	208	197	—
国際価格	69	66	65	63	74

※国内価格は粗生産額を生産量で除した推計値

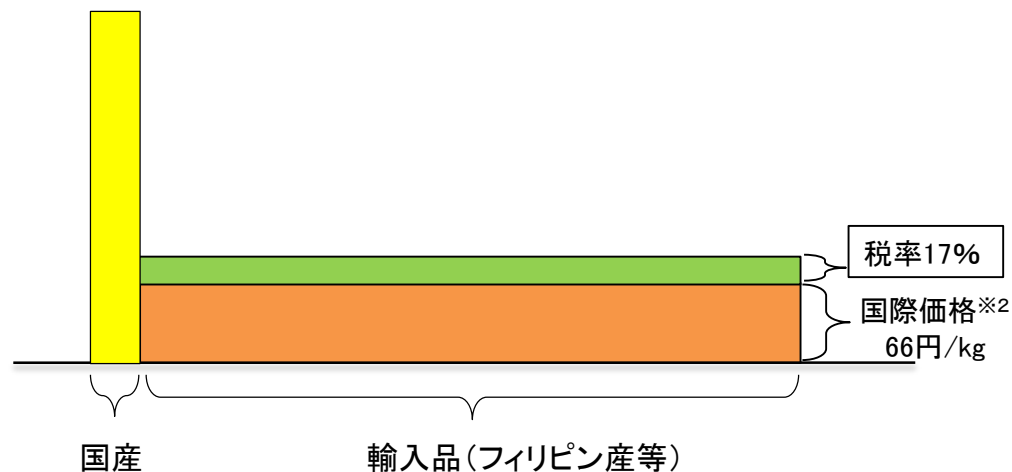
※国際価格は、財務省貿易統計(パインアップルCIF価格)

【国境措置】

関税率	国境措置の概要
17%	—

国内価格※1

195円/kg



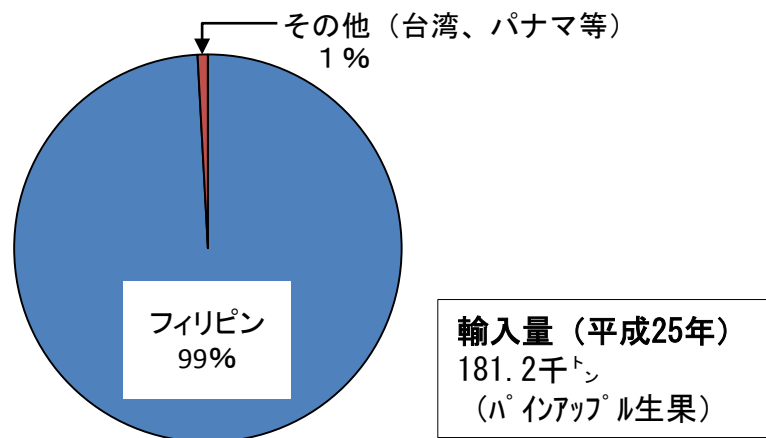
※1：国内価格は2010年～2013年の粗生産額を生産量で除した推計値の4年平均

※2：国際価格はパインアップルのCIF価格(2010年～2013年の4年平均)

パインアップル(生果)について

- 現行17%の関税を毎年同じ割合で削減し、11年目に撤廃。
- 輸入量のほぼ全量がTTP不参加国のフィリピンから輸入されている。
- 国産パインアップルは国内需要量の4%と希少性があることに加え、完熟ならではのみずみずしさといった品質が評価され高価格で販売されている。

○ 国別輸入割合(平成25年)



パインアップル(生果)の国別輸入割合(財務省貿易統計)

○ 国産パインアップル新品種等

「ゴールドバレル」

- ・ 平成21年品種登録
- ・ 大玉で甘い生食用品種



新品種「ゴールドバレル」

「N67-10(優良系統)」

- ・ 生食・加工兼用品種
- ・ 大玉系統を緊急増殖中

○ 国内生産量(平成25年)

国内生産量	主な生産地(平成25年)		
6.6千トン(パインアップル生果) (生産量シェア)	沖縄県 (100%)	—	—

資料:農林水産省調べ

○ 国産価格と輸入価格の推移

価格の推移(円/kg)					
年	22	23	24	25	26
国産価格	171	205	208	197	—
輸入価格	69	66	65	63	74

※国産価格は粗生産額を生産量で除した推計値

※輸入価格は、財務省貿易統計(パインアップルCIF価格)

パインアップル缶詰

- パインアップル缶詰については、国内の需要量を把握して関税割当数量を設定する一方、この枠を超える輸入分については二次税率(33円/kg)を適用。
- パインアップル缶詰の国内生産量は約4百トン、輸入量は約3万5千トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は約99%となっている。
- パインアップル缶詰の主な輸入先はタイであり、輸入全体の56%を占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
0.4千 ^{トン} (パインアップル缶詰) (生産量シェア)	沖縄県 (100%)	—	—

出典:園芸作物課調べ

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
35.1千 ^{トン} (パインアップル缶詰) (輸入量シェア)	タイ (56%)	インドネシア (20%)	フィリピン (18%)

出典:貿易統計

【価格】

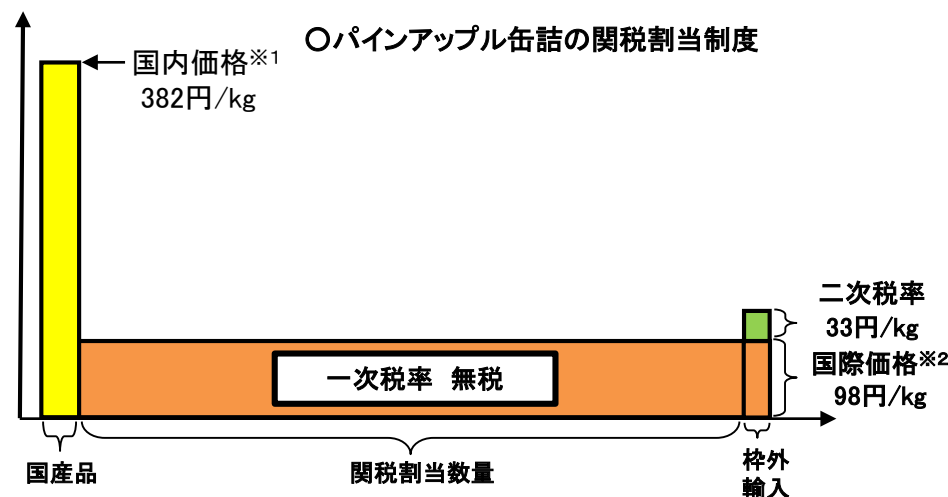
価格の推移(円/kg)					
	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	314	319	445	450	
国際価格	93	95	95	109	121

※国内価格は、パインアップル缶詰の本土でのJAおきなわの販売価格)

※国際価格は、財務省貿易統計(パインアップル缶詰CIF価格)

【国境措置】

関税率(〔 〕は従価税換算値)		国境措置の概要
一次税率 無税	二次税率 33円/kg	国産パインアップル缶詰の購入を条件に関税を 無税(2013年度計画ベース)



※1: 国内価格は2010年～2013年の粗生産額を生産量で除した推計値の4年平均

※2: 国際価格は財務省貿易統計(CIF価格:パインアップル缶詰)(2010～2013年4年平均)

【備考】

○総合農産加工場(東村:ひがしそん):平成21年操業。従業員数:176人。

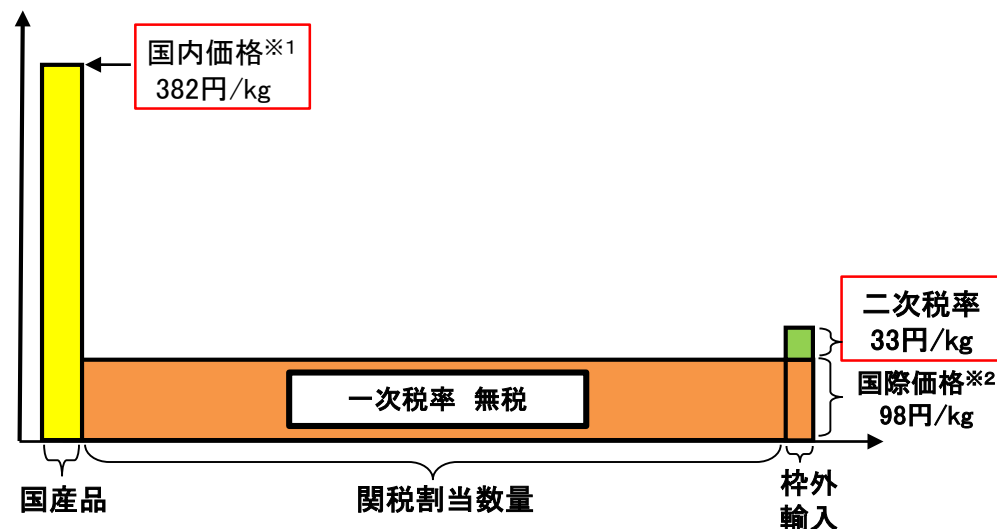
○パインアップル生産の経緯

戦後、沖縄県が米軍の統治下におかれた際に、肥沃な耕地は米軍が基地として接收したことから、農業者は北部の未墾地に入植し、パインアップル栽培を開始した経緯がある。

パイナップル(缶詰)について

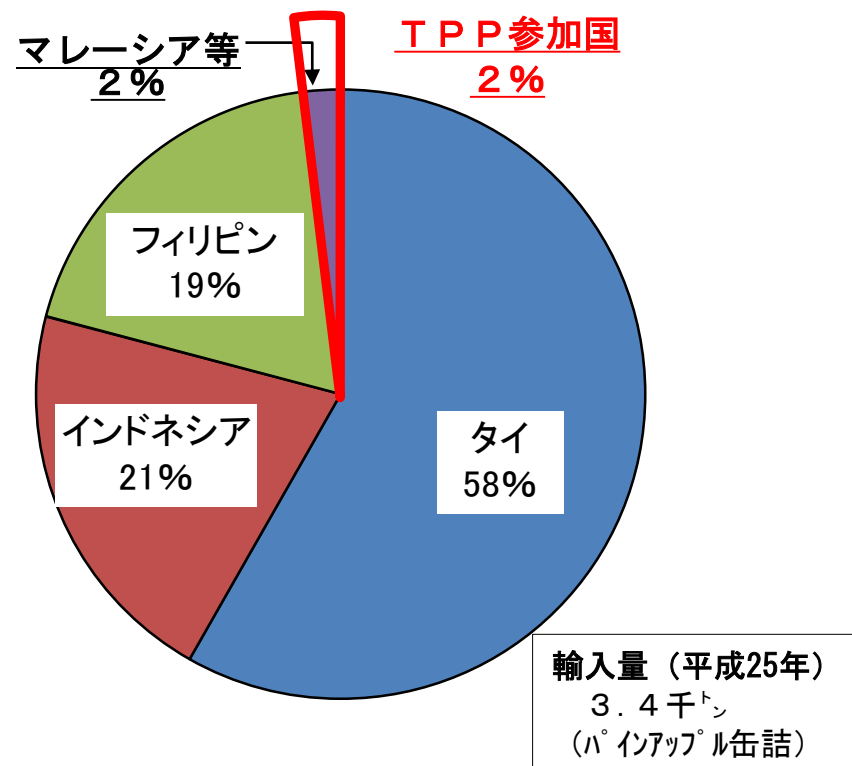
- 現行の関税割当(枠内税率無税)を維持し、枠外税率を、現行33円/kgから、毎年同じ割合で削減し、6年目に28.05円/kg(▲15%)に引き下げ。
- 関税割当が維持できたため、引き続き、パイナップル缶詰を輸入する際には、国産パイナップル缶詰の購入が義務化されるため、国産の販路は確保される。
- 輸入量のほとんどは、TPP不参加国のタイ、インドネシア、フィリピンが占めており、TPP参加国からの輸入は2%程度である。

○ 国境措置(関税割当制度)



※1: 国内価格は2010年～2013年の粗生産額を生産量で除した推計値の4年平均
 ※2: 国際価格は財務省貿易統計(CIF価格:パイナップル缶詰) (2010～2013年4年平均)

○ 国別輸入割合(平成25年)



パイナップル(缶詰)の国別輸入割合(財務省貿易統計)

トマト加工品(加工原料用トマト)

- トマトケチャップ・ソース製造用のトマトピューレ・ペーストについては、関税割当制度により実需者に安価な原料を供給する一方、枠外については2次税率(16%)を適用。
- トマト加工品の主な輸入品目であるトマトピューレー・ペーストについては年間約14万トン、トマトケチャップについては年間約6千トン、トマトジュースについては年間約2千トンが輸入されている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
309.3千トン(トマト加工品) (生産量シェア)	-	-	-
36.4千トン(加工原料用トマト) (生産量シェア)	茨城県 (36%)	長野県 (33%)	栃木県 (6%)

出典:園芸作物課調べ

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
トマト加工品全体:266.9千トン (輸入量シェア)	イタリア (38%)	中国 (17%)	米国 (13%)
トマトピューレー・ペースト: 140.9千トン (輸入量シェア)	中国 (30%)	ポルトガル (22%)	米国 (17%)
ケチャップ:6.5千トン (輸入量シェア)	米国 (65%)	オランダ (30%)	中国 (4%)
ソース:0.9千トン (輸入量シェア)	米国 (93%)	イタリア (6%)	フランス (0%)
ジュース:2.5千トン (輸入量シェア)	トルコ (62%)	スペイン (18%)	米国 (14%)

出典:貿易統計

【価格】

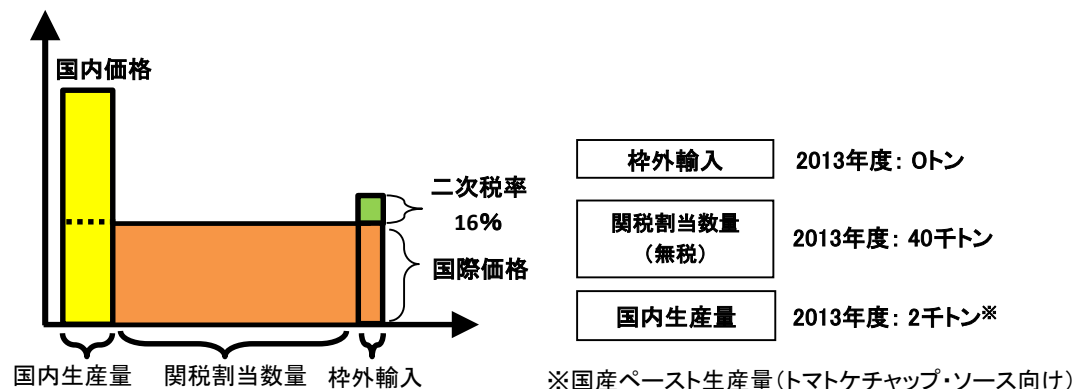
価格の推移(円/kg)					
	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	-	-	-	-	-
国際価格					
ピューレ・ペースト	103	90	88	112	130
ケチャップ	101	94	97	116	121
ソース	108	114	103	117	116
ジュース	72	69	72	101	142

※国際価格は、財務省貿易統計(CIF価格)

【国境措置】

品目	関税率		国境措置の概要
トマトピューレー・ペースト	一次 税率 0%	二次 税率 16%	トマトピューレー・ペーストは関税割当 を実施(2013年:40千ト) (トマトケチャップ・ソースに用途指定)
トマトケチャップ	21.3%		
トマトソース	17%		
トマトジュース	29.8%、21.3%		

【トマトピューレー・ペースト(トマトケチャップ・ソース製造用)の関税割当制度】



トマト加工品(加工原料用トマト)について ①

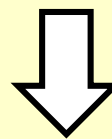
○ トマト加工品は、

- ① トマトピューレー・ペースト(トマトケチャップ・ソース製造用)について、現行16%の枠外税率を、毎年同じ割合で削減し、6年目に関税撤廃(枠内は現行無税)。
- ② トマトピューレー・ペースト(ジュースなどその他用途用)について、現行16%の関税を、毎年同じ割合で削減し、6年目に関税撤廃。
- ③ トマトソースについて、現行17%の関税を、毎年同じ割合で削減し、11年目に関税撤廃。
- ④ トマトケチャップについて、現行21%の関税を、毎年同じ割合で削減し、11年目に関税撤廃。
- ⑤ トマトジュースについて、現行21%又は29.8%の関税を、毎年同じ割合で削減し、6年目に関税撤廃。

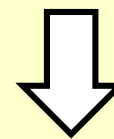
○ トマトピューレー・ペーストの輸入量(直近3カ年平均)

用 途	税 率	輸 入 量
トマトケチャップ ソース製造用	枠内: 無税 枠外: 16% ↓ 枠外を6年目に撤廃	38, 252トン
ジュース用など その他用	16% ↓ 6年目に撤廃	94, 626トン

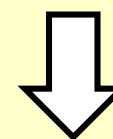
トマトピューレー・ペーストの用途



濃縮還元
トマトジュース



トマトケチャップ



トマトソース

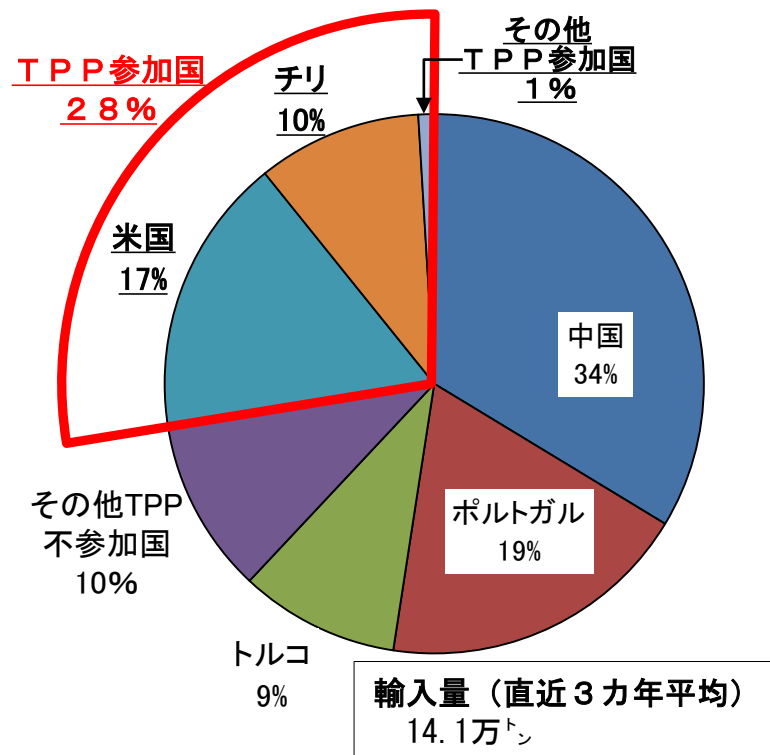
トマト加工品(加工原料用トマト)について ②

- 国産の加工原料用トマトは、トマト加工メーカーとの全量契約栽培で行われており、そのほとんどが、ストレートジュースに仕向けられている。
- 国産ストレートジュースは、新鮮なトマトの風味が活かされているため、近年、ニーズが高まっており、メーカー側は、国内契約数量を増やしたい意向が強い状況である。
- トマトピューレー・ペーストの輸入量は、中国・ポルトガルなどTPP不参加国からが7割以上であり、TPP参加国からの輸入は3割以下である。

○生食用と加工用の栽培

	生食用トマト	加工用トマト
栽培方法	➤ハウス・雨よけ 	➤露地 
品種特性	 生食用トマト	 加工用トマト

○ 国別輸入割合(直近3カ年平均)



資料: トマトピューレー・ペーストの国別輸入割合(財務省貿易統計)

かぼちゃ

○ かぼちゃの国内生産量は約20万トン、輸入量は約10万トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は3割程度である。

○ かぼちゃの主な輸入先はニュージーランド、メキシコで、輸入量の9割となっている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
211.8千トン (生産量シェア)	北海道 (50%)	鹿児島県 (5%)	茨城県 (4%)

【輸入量】

出典:生産出荷統計

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
105.3千トン (輸入量シェア)	NZ (50%)	メキシコ (45%)	ニューカレドニア (2%)

出典:貿易統計

【価格】

価格の推移(円/kg)

年	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	186	193	149	186	217
国際価格	78	70	73	79	91

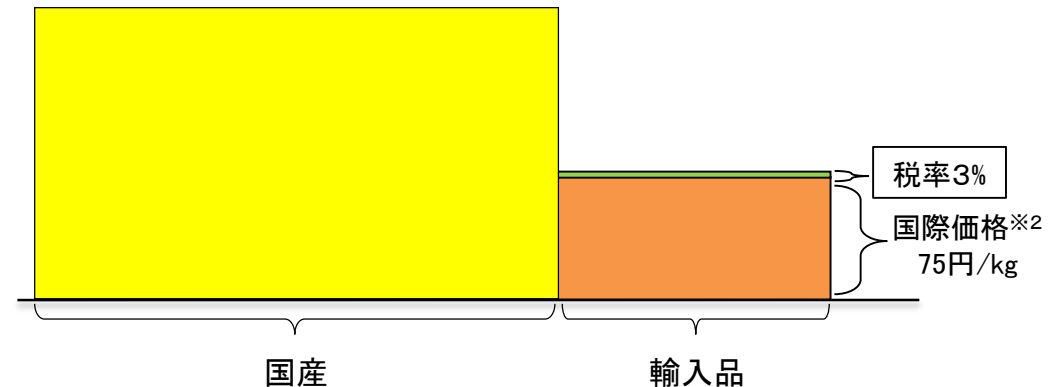
※国内価格は、東京都中央卸売市場の国産価格

※国際価格は、財務省貿易統計(かぼちゃCIF価格)

【国境措置】

関税率	国境措置の概要
3%	—

国内価格※1
176円/kg



※1:国内価格は東京都中央卸売市場かぼちゃ価格H23～H25の3年平均

※2:かぼちゃのCIF価格(2011年～2013年の3年平均)

かぼちゃ(生鮮)について

- 現行3%の関税を即時撤廃。
- 国産のかぼちゃは、輸入かぼちゃと2倍以上の価格差があるが、食味や安全・安心感から消費者に選択されている。このため、輸入は国産品が出回らない時期が中心となっており、国産との時期的な住み分けが出来ている状況。

○ 国産かぼちゃ価格と輸入かぼちゃ価格の比較

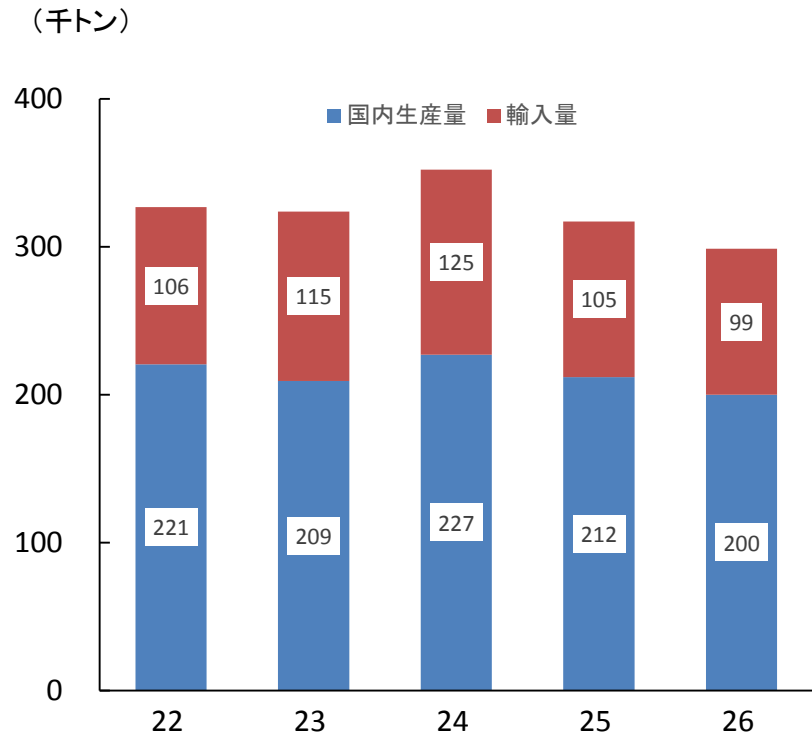
年	22	23	24	25	26	(円/kg)
国産価格	186	193	149	186	217	
輸入価格	78	70	73	79	91	
内外価格差(倍)	2.4	2.8	2.0	2.4	2.4	

※1:国産価格は東京都中央卸売市場のかぼちゃの年平均価格
※2:輸入価格はかぼちゃ(生鮮・冷蔵)のCIF価格

○ 国産かぼちゃと輸入かぼちゃの出回り時期

国/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
国産						←→						
メキシコ	↔											↔
NZ	←→											

○ かぼちゃの国内生産量及び輸入量の推移 (平成22～26年)



※:国内生産量:かぼちゃ収穫量(野菜生産出荷統計)
輸入量:かぼちゃ輸入量(財務省貿易統計)

アスパラガス

- アスパラガスの国内生産量は約3万トン、輸入量は約1万トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は約3割である。
- アスパラガスの主な輸入先はメキシコ、豪州、ペルーで、輸入量の約8割を占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
29.6千トン (生産量シェア)	北海道 (15%)	佐賀県 (10%)	長野県 (9%)

出典: 生産出荷統計

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
11.3千トン (輸入量シェア)	メキシコ (46%)	豪州 (18%)	ペルー (17%)

出典: 貿易統計

【価格】

価格の推移(円/kg)					
年	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	981	1,064	1,065	1,058	1,162
国際価格	523	534	503	631	642

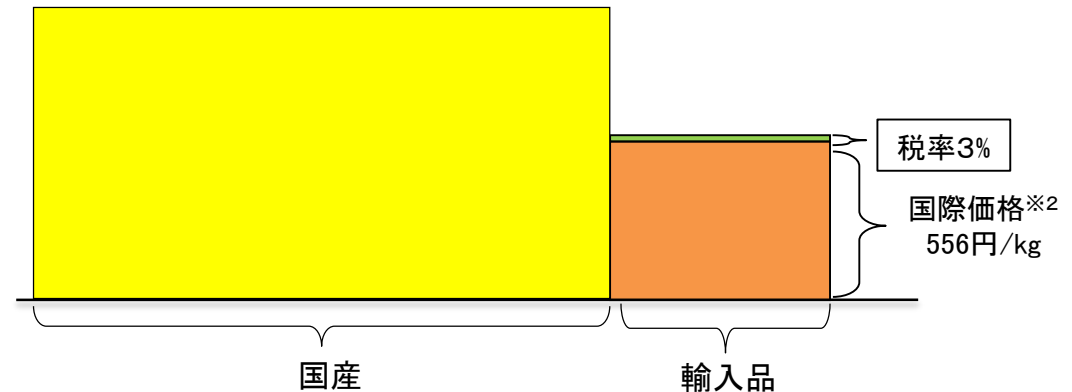
※国内価格は、東京都中央卸売市場の国産価格

※国際価格は、財務省貿易統計(アスパラガスCIF価格)

【国境措置】

関税率	国境措置の概要
3%	—

国内価格※1
1,062円/kg



※1: 国内価格は東京都中央卸売市場アスパラガス価格H23～H25の3年平均

※2: アスパラガスのCIF価格(2011年～2013年の3年平均)

アスパラガス(生鮮)について

- 現行3%の関税を即時撤廃。
- 国産のアスパラガスは、輸入アスパラガスと2倍程度の価格差があるが、食味、鮮度、安全・安心感から消費者に選択されているため、輸入品は国産品が出回らない時期が中心となっており、国産との时期的な住み分けが出来ている状況。

○ 国産アスパラガス価格と輸入アスパラガス価格の比較

(円/kg)

年	22	23	24	25	26
国産価格	981	1,064	1,065	1,058	1,162
輸入価格	523	534	503	631	642
内外価格差(倍)	1.9	2.0	2.1	1.7	1.8

※1:国産価格は東京都中央卸売市場のアスパラガスの年平均価格

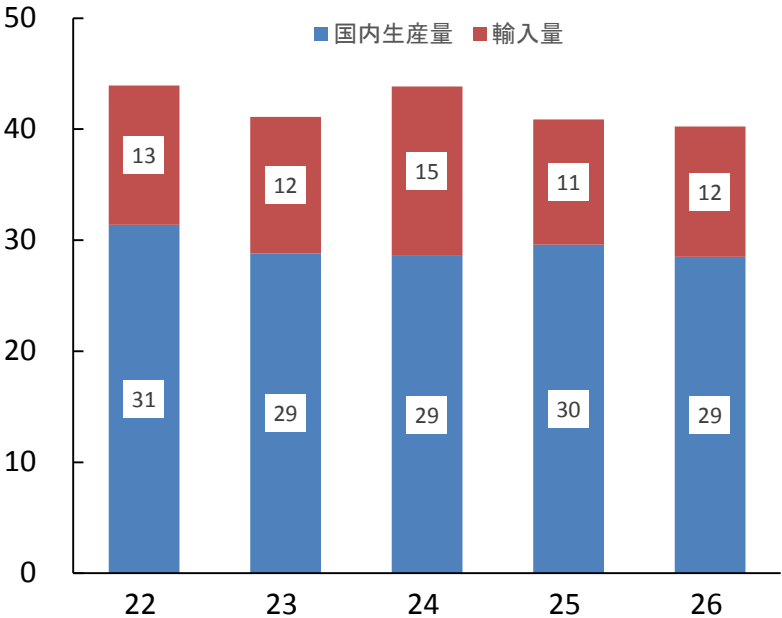
※2:輸入価格はアスパラガス(生鮮・冷蔵)のCIF価格

○ 国産アスパラガスと輸入アスパラガスの出回り時期

国/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
国産			←						→			
豪州									←		→	
ペルー												↔
メキシコ	←		→									

○ アスパラガスの国内生産量及び輸入量の推移 (平成22～ 26年)

(千トン)



※:国内生産量:アスパラガス収穫量(野菜生産出荷統計)
輸入量:アスパラガス輸入量(財務省貿易統計)

たまねぎ

- たまねぎの国内生産量は約100万トン、輸入量は約30万トンであり、国内供給に占める輸入の割合は約35%である。
- たまねぎの主な輸入先は中国であり、輸入全体の8割以上を占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
1,068.0千トン (生産量シェア)	北海道 (54%)	佐賀県 (15%)	兵庫県 (8%)

出典: 生産出荷統計

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
302.2千トン (輸入量シェア)	中国 (84%)	米国 (10%)	NZ (3%)

出典: 貿易統計

【価格】

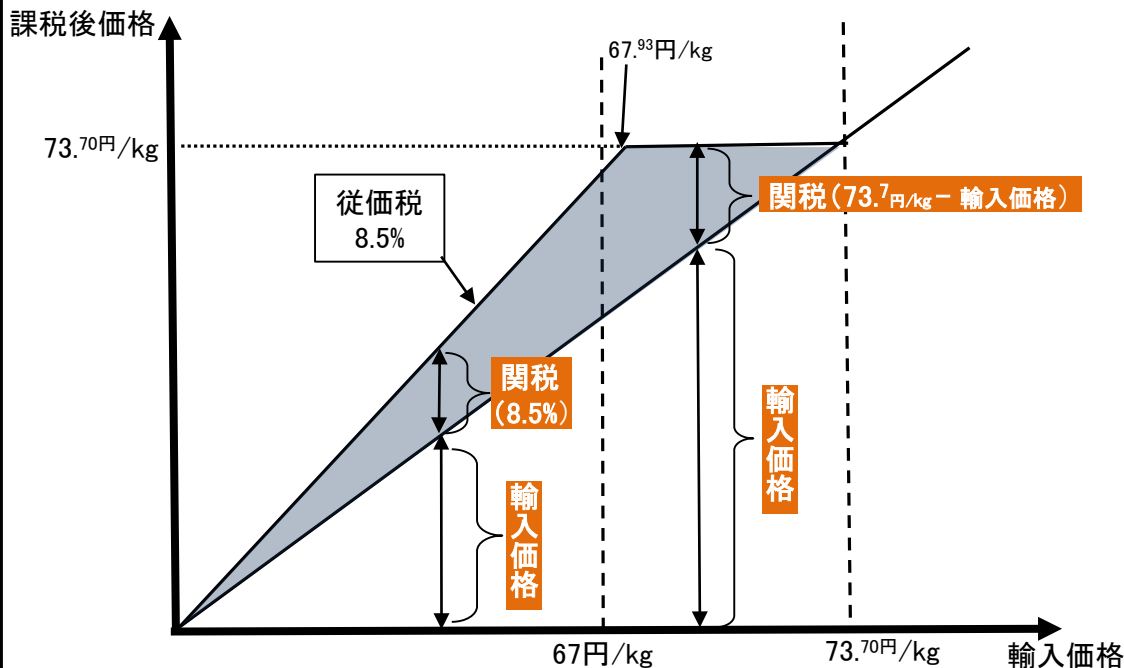
価格の推移(円/kg)					
年	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	129	102	103	95	119
国際価格	42	38	42	55	49

※国内価格は、東京都中央卸売市場市場統計情報の国産品価格

※国際価格は、財務省貿易統計(たまねぎCIF価格)

【国境措置】

関税率	国境措置の概要
課税価格が1kgにつき67円以下のもの	8.5%
課税価格が1kgにつき67円を超え73円70銭以下のもの	「8.5%」又は「73.70円/kg - (輸入価格) / kg」
課税価格が1kgにつき73円70銭を超えるもの	無税



たまねぎ(生鮮)について

- たまねぎは、
 - ① 課税価格が1kgにつき67円以下のものについて、現行8.5%の関税を、段階的に6年目に撤廃、
 - ② 課税価格が1kgにつき67円を超え73円70銭以下のものについて、現行「8.5%」又は「73.70円/kg－(課税価格)/kg」の関税を、段階的に6年目に撤廃、
 - ③ 課税価格が1kgにつき73円70銭を超えるものは現行無税となっている。
- 米国からの輸入は、国産や中国産が不作の際に輸入されるもので恒常的ではなく、NZからの輸入は、国内産地の端境期での輸入で限定的な状況。
- 輸入量の大部分は中国が占めており、TPP参加国からの輸入は1割程度である。

○ 国産たまねぎ価格と輸入たまねぎ価格の比較 (円/kg)

年	22	23	24	25	26
国産価格	129	102	103	95	119
輸入価格	42	38	42	55	49
内外価格差(倍)	3.1	2.7	2.5	1.7	2.4

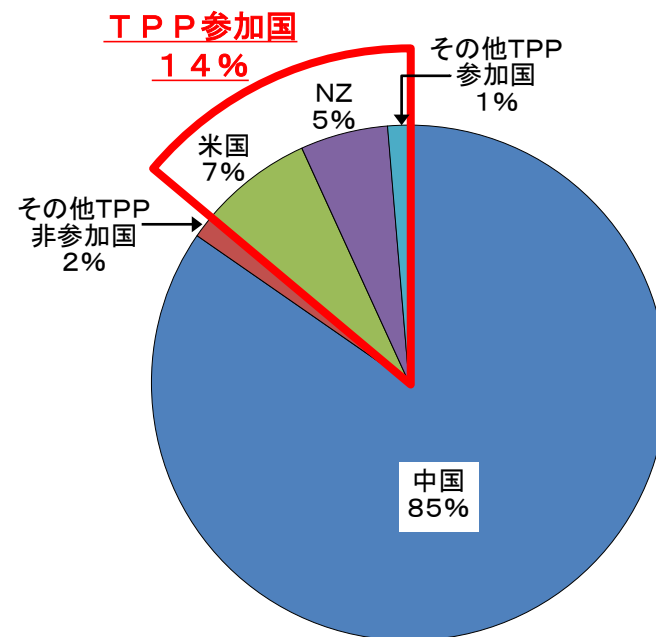
※1:国産価格は東京都中央卸売市場のたまねぎの年平均価格

※2:輸入価格はたまねぎ(生鮮・冷蔵)のCIF価格

○ 国産たまねぎと輸入たまねぎの出回り時期

国/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
国産 (北海道産)	←→							←→				
中国	←											→
米国	←		→							←		→
NZ				←→								

○ 国別輸入割合(直近3カ年平均)



※:財務省貿易統計

にんじん

- にんじんの国内生産量は約60万トン、輸入量は約10万トンであり、国内供給に占める輸入の割合は約1割である。
- にんじんの主な輸入先は中国であり、輸入全体の約9割を占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2013年産)		
603.9千トン (生産量シェア)	北海道 (29%)	千葉県 (18%)	徳島県 (9%)

出典:生産出荷統計

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年)		
82.9千トン (輸入量シェア)	中国 (90%)	NZ (4%)	台湾 (3%)

出典:貿易統計

【価格】

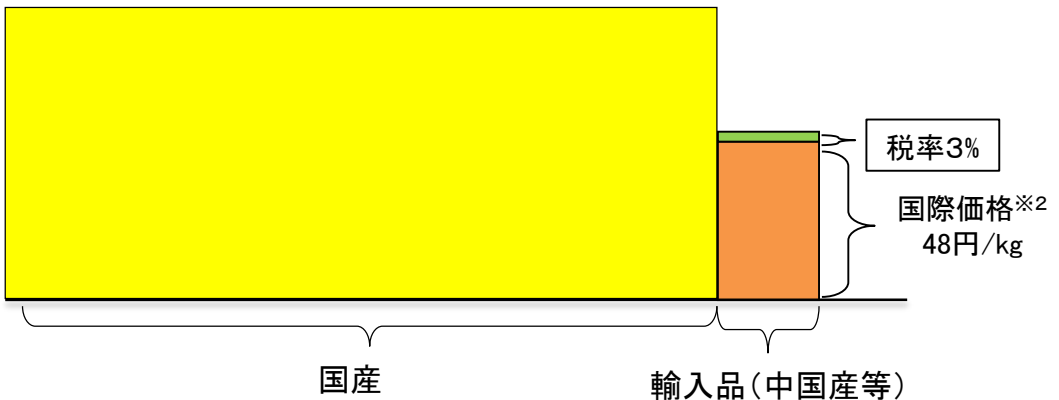
価格の推移(円/kg)					
年	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	142	138	126	143	119
国際価格	43	44	45	55	48

※国内価格は、東京都中央卸売市場市場統計情報の国産品価格
 ※国際価格は、財務省貿易統計(にんじんCIF価格)

【国境措置】

関税率	国境措置の概要
3%	—

国内価格※1
136円/kg



※1:国内価格は東京都中央卸売市場にんじん価格H23～H25の3年平均
 ※2:にんじんのCIF価格(2011年～2013年の3年平均)

にんじん(生鮮)について

- 現行3%の関税を即時撤廃。
- 国産のにんじんは輸入のにんじんと3倍程度の価格差があるが、食味、鮮度、安全・安心感から消費者に選択されている。このため輸入は主に加工・業務用に使用されている状況。
- にんじんは、輸入量の大部分は中国が占めており、TPP参加国からの輸入は1割以下である。

○ 国産価格と輸入価格の比較

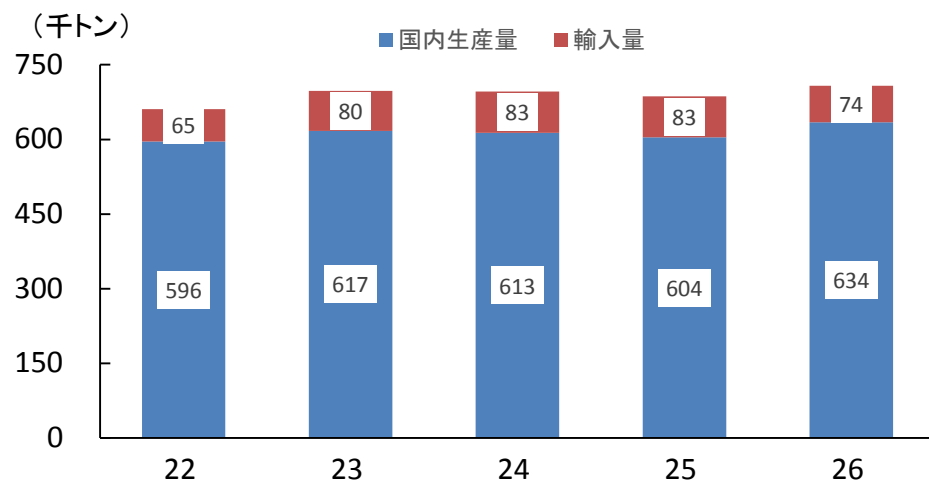
(円/kg)

年	22	23	24	25	26
国産価格	142	138	126	143	119
輸入価格	43	44	45	55	48
内外価格差(倍)	3.3	3.1	2.8	2.6	2.5

※1:国産価格は東京都中央卸売市場のにんじんの年平均価格

※2:輸入価格はにんじん(生鮮・冷蔵)のCIF価格

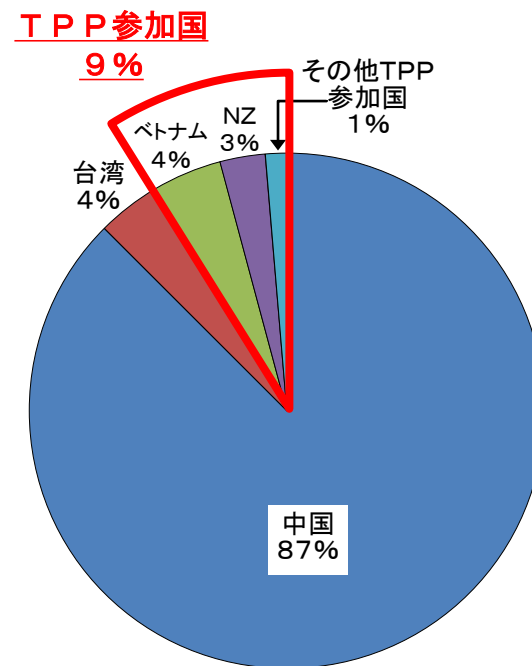
○ にんじんの国内生産量及び輸入量の推移



※:国内生産量:にんじん収穫量(果樹生産出荷統計)

輸入量:にんじん輸入量(財務省貿易統計)

○ 国別輸入割合(平成26年)



※:財務省貿易統計

雑豆

- 国内需要を国内生産でまかなえないものを雑豆(小豆、いんげん、えんどう及びそらまめ)として、一括して関税割当を実施(全体12万トン)。
- 高い税率により関税割当枠外の輸入を抑制。
- 国内生産は小豆、いんげんが太宗を占め、えんどう、そらまめは、ほとんどない。

【生産量】

国内生産量 (小豆、いんげん)	主な生産地(2013年産)		
84千トン (生産量シェア)	北海道 (94%)	—	—

出典: 作物統計

【輸入量】

輸入量(小豆、いんげん等、えんどう、そら豆)	主な輸入先国(2013年度)		
79千トン (輸入量シェア)	中国 (33%)	カナダ (30%)	米国 (15%)

出典: 貿易統計

【価格】

価格の推移(円/kg)					
年度	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	356	361	375	359	331
国際価格	123	106	107	141	167

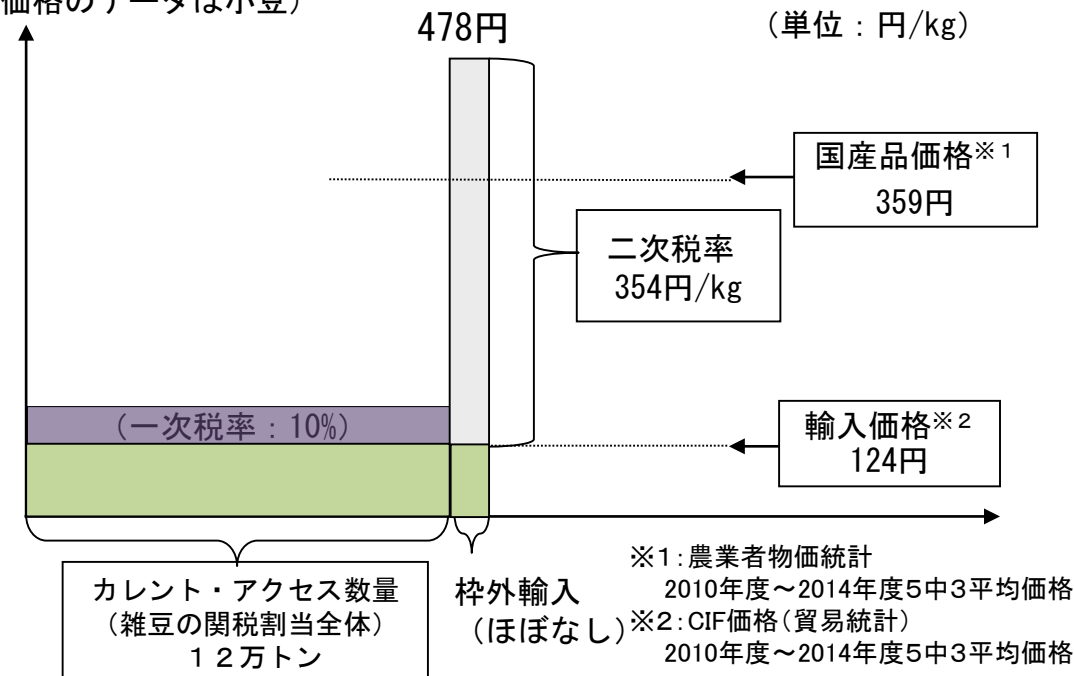
※国内価格は、農業者物価統計。

※国際価格は、CIF平均単価(貿易統計)。

【国境措置】

関税率()は従価税換算値)		国境措置の概要
一次税率 10%	二次税率 354円/kg 〔403%〕	○ 枠内 カレント・アクセス数量 ○ 枠外 高水準の関税

(価格のデータは小豆)



落花生

- 国内需要を国内生産でまかなえないものについて関税割当を実施(7.5万トン)。
- 国産品と輸入品の品質格差が大きく、輸入量も関税割当量の4割以下。

【生産量】

国内生産量※	主な生産地(2013年産)		
16千トン (生産量シェア)	千葉県 (78%)	茨城県 (12%)	—

出典: 国内生産量及びシェアは主産県(千葉県、茨城県)を対象とした調査結果から推計

※ 国内生産量は殻付きの数値

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年度)		
27千トン (輸入量シェア)	中国 (42%)	米国 (39%)	南アフリカ (9%)

出典: 貿易統計

※ 輸入量はむきみの数値

【価格】

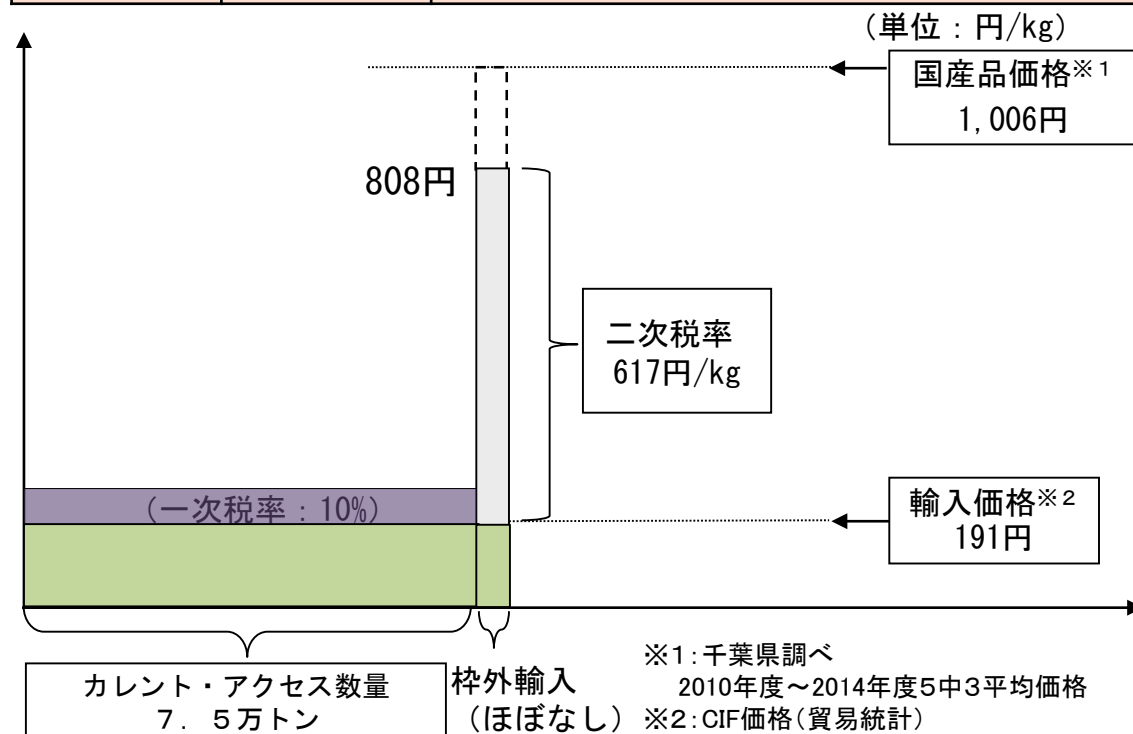
価格の推移(円/kg)					
年度	2010	2011	2012	2013	2014
国内価格	943	1,070	930	1,005	1,568
国際価格	142	168	206	199	207

※国内価格は、千葉県調べ。

※国際価格は、CIF平均単価(貿易統計)。

【国境措置】

関税率()は従価税換算値)		国境措置の概要
一次税率 10%	二次税率 617円/kg 〔737%〕	○ 枠内 カレント・アクセス数量 ○ 枠外 高水準の関税



牛 肉

○ 輸入牛肉等関税収入については、平成3年(1991年)度からの牛肉輸入自由化に対応するため、当該年度の輸入牛肉等関税収入相当額を肉用子牛等対策費として、肉用牛生産の合理化等に係る施策の財源に充当している。

○ 具体的には、

- ① 肉用牛の繁殖農家に対して、子牛価格が保証基準価格を下回った場合に補給金を交付する制度
- ② 肉用牛の肥育農家に対して、収益性が悪化した場合に損失の一部を補填する事業
- ③ その他肉用牛生産の合理化や食肉の流通の合理化のための対策などの財源として使われている。

【生産量】

国内生産量 (2013年度)	主な生産地 (飼養頭数ベース:2014年2月1日現在)		
354千トン (生産量シェア)	北海道 (20%)	鹿児島県 (13%)	宮崎県 (10%)

出典:食肉流通統計
畜産統計

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2013年度)		
536千トン (輸入量シェア)	豪州 (52%)	米国 (38%)	NZ (5%)

出典:貿易統計

【価格】

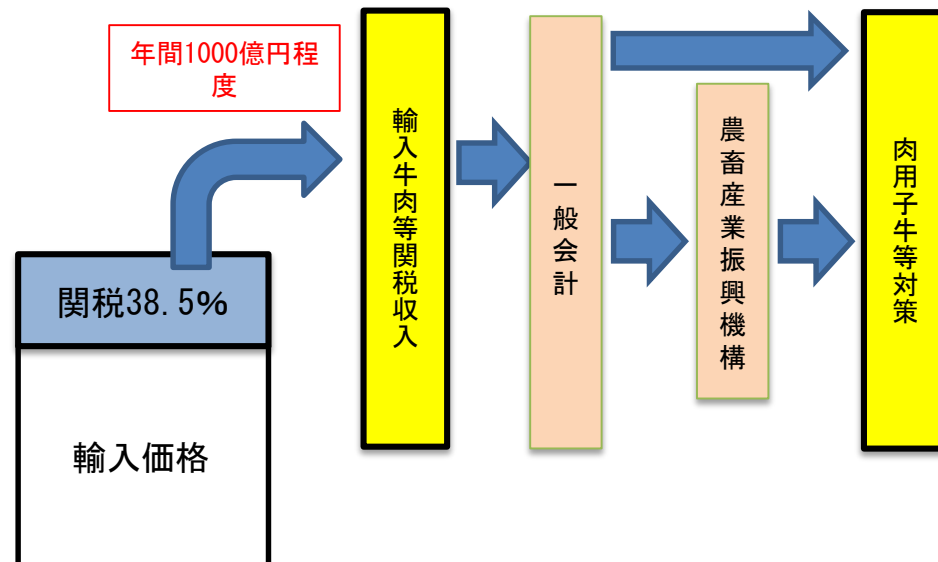
価格の推移(円/kg)					
年度	2010	2011	2012	2013	2014
国内(和牛)	2480	2203	2487	2750	2977
国内(交雑)	1649	1383	1560	1741	1893
国内(ホル)	934	723	884	1113	1251
国際価格	404	405	445	508	633

(注)部分肉ベース、国内は去勢牛の価格
国内価格:中央10市場平均
国際価格:CIF平均単価

出典:食肉流通統計
貿易統計

【国境措置】

関税率		国境措置の概要
一次税率 38.5%	二次税率 —	ウルグアイ・ラウンドにおける関係国との協議結果に基づき、協定税率(50%)よりも低い38.5%の暫定税率を設定



○ 牛肉の関税緊急措置

輸入数量が一定水準を超えて急増した場合、関税をWTO上の譲許水準(50%)に戻す緊急措置が講じられている。

肉用牛の飼養動向

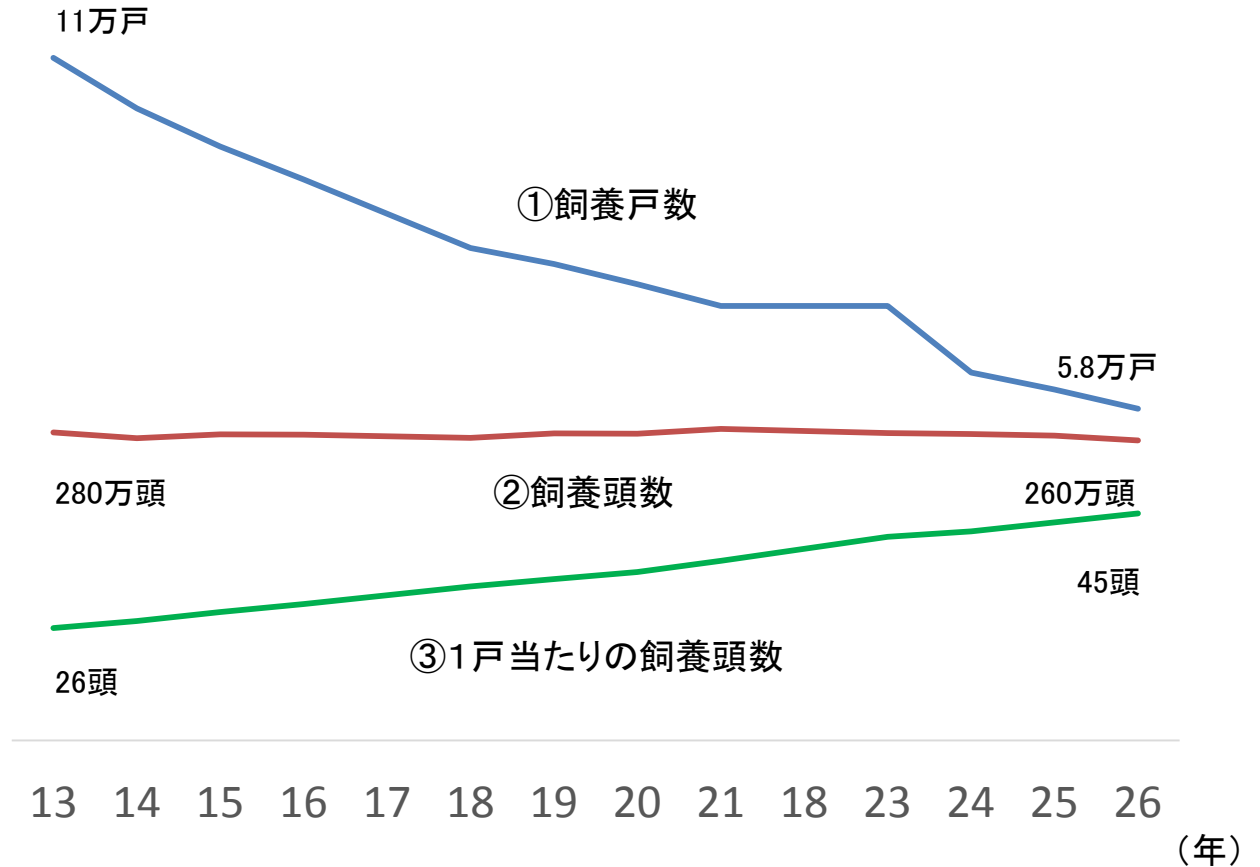
①飼養戸数は、近年減少傾向で推移しており、13年間で約5割減少。

(13年:11万戸→26年:5.8万戸)

②飼養頭数は、近年ほぼ横ばいで推移している。

(13年:280万頭→26年:260万頭)

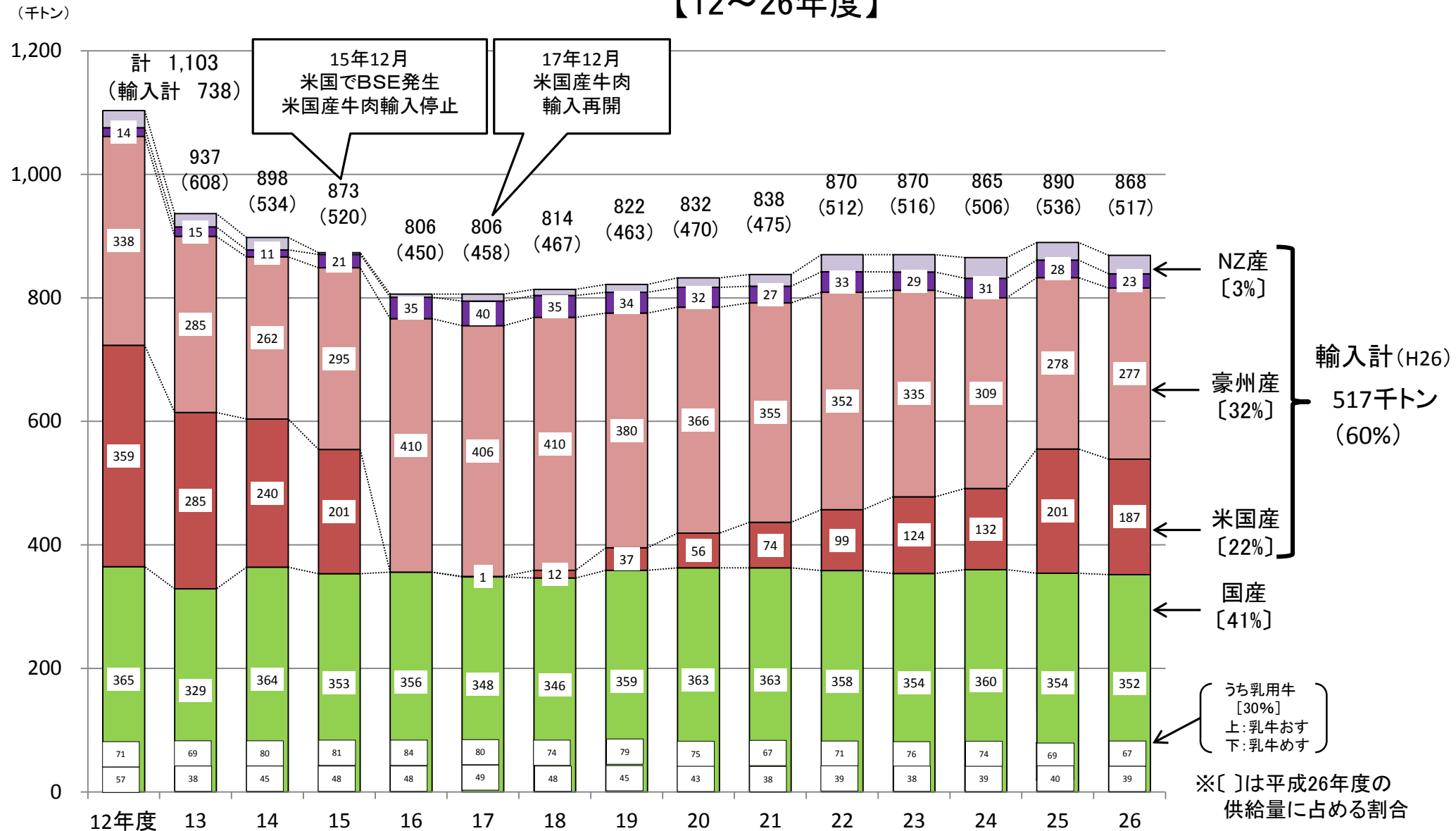
③1戸当たりの飼養頭数は着実に増加しており、13年間で約1.8倍の増加。(13年:26頭→26年:45頭)



出典:農林水産省「食肉鶏卵をめぐる情勢」

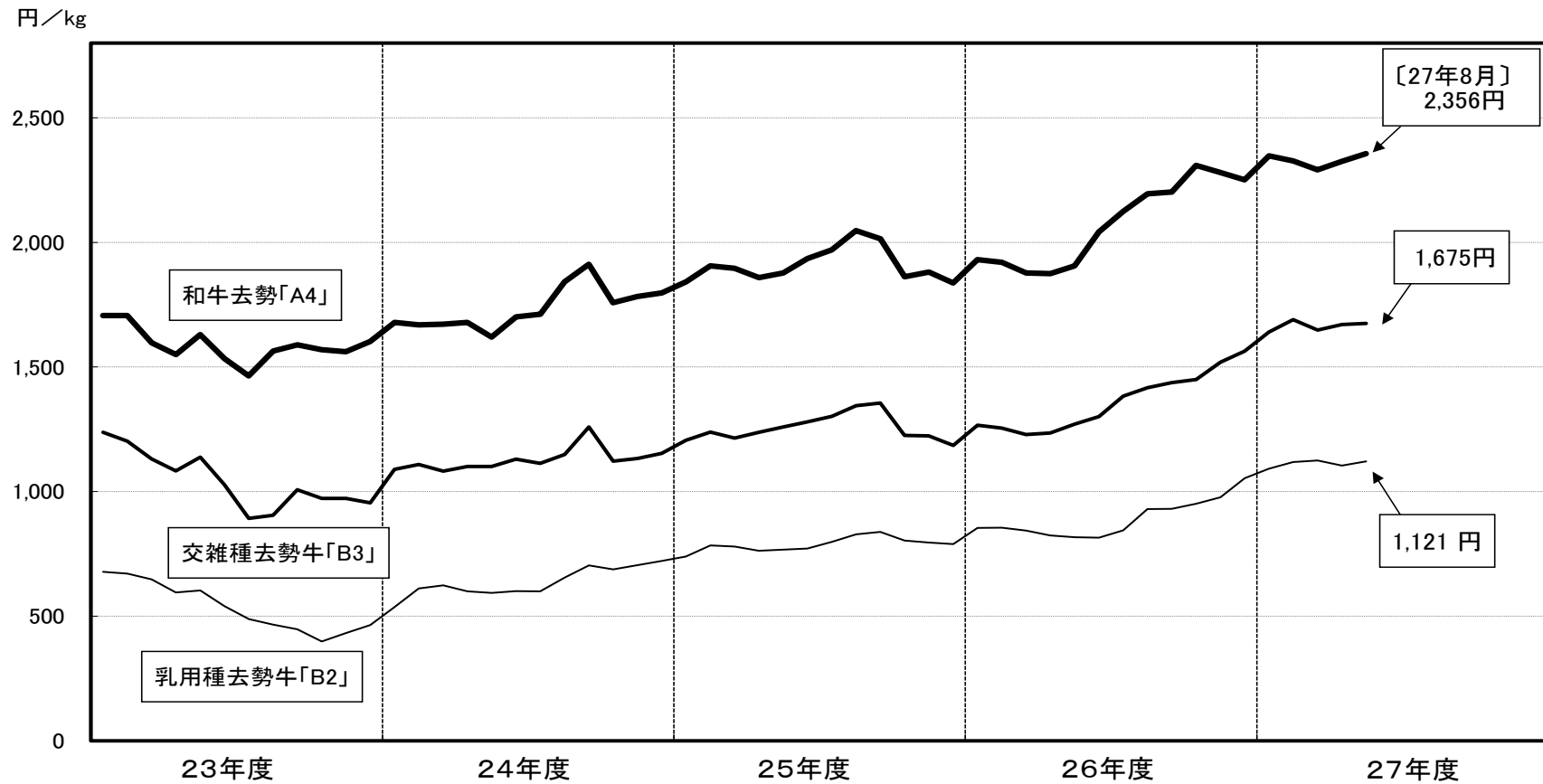
牛肉の供給量

【12～26年度】



資料：農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「日本貿易統計」
注：数量は、部分肉ベースの値であり、輸入調製品は含まれていない。

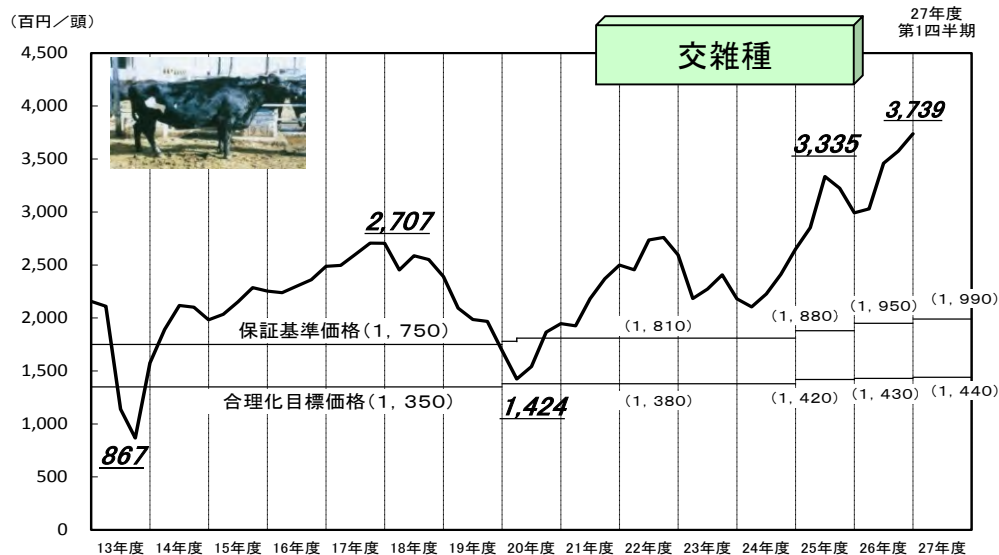
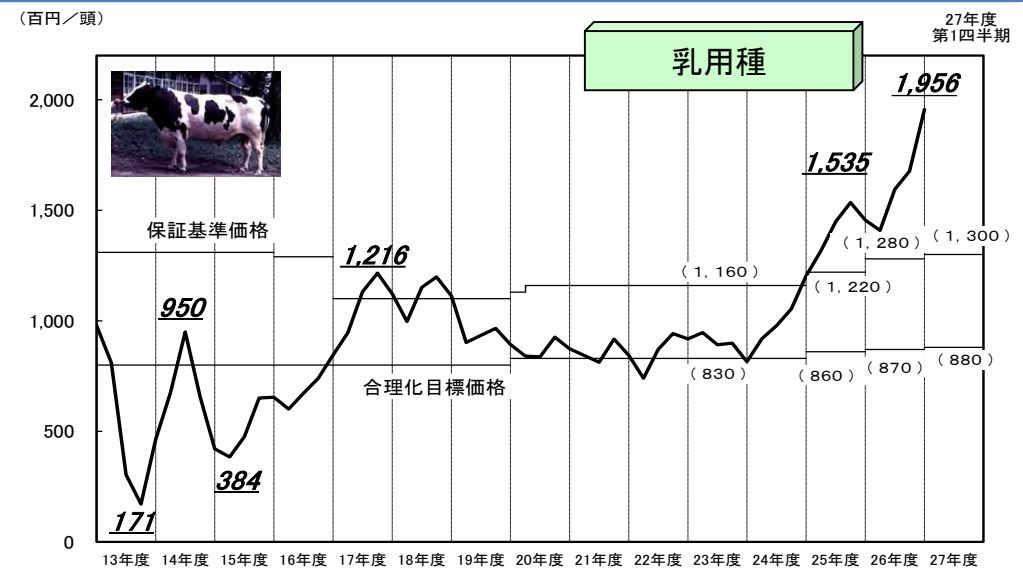
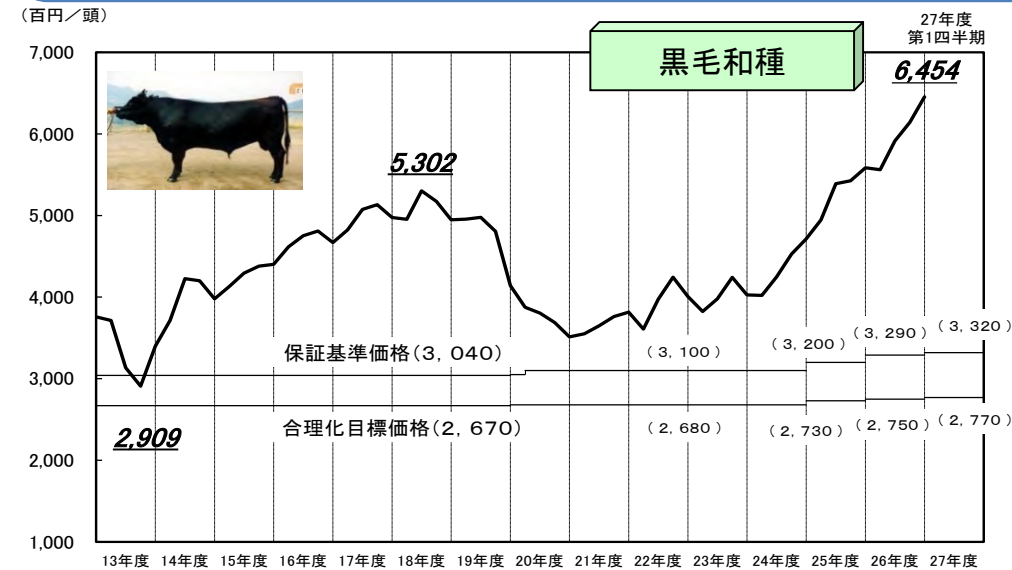
国産牛肉の価格動向



資料：農林水産省「食肉流通統計」

肉用子牛価格の推移

- 肥育もと牛となる肉用子牛の取引価格は、各品種とも平成13年度の国内BSEの発生等の影響により大きく下落したが、その後、回復傾向で推移。
- 平成19年度以降は、枝肉価格の低下に伴い低下したが、22年度以降は、子取り用めす牛の減少により子牛の分娩頭数が減少したことに加え、枝肉価格が上昇したことから、肉用子牛価格も上昇。



○ 牛肉に係る国境措置

- i) ウルグアイ・ラウンド（UR）農業交渉において、UR 農業合意を満たす関税水準を超えて、自主的に関税率を 50%（譲許税率、1994年）から38.5%（2000年）まで段階的に引き下げることに合意した。
- ii) 一方、その代償措置として、冷蔵牛肉、冷凍牛肉の各々について、各四半期末までのEPA対象国以外の国からの累計輸入量が発動基準数量（前年度同期の輸入量の117%）を超えた場合、関税率が譲許税率である50%まで戻される関税緊急措置※が導入されている。

豪州に対しては、本措置に代わり、日豪EPAに基づく新しいセーフガードが適用される。

【日豪EPAに基づく牛肉セーフガード】

・発動基準 冷凍 196.7千トン(27年度)

冷蔵 131.7千トン(27年度)

・累計輸入量が発動基準を超過すれば、関税率を発効前の水準(38.5%)に引上げ。

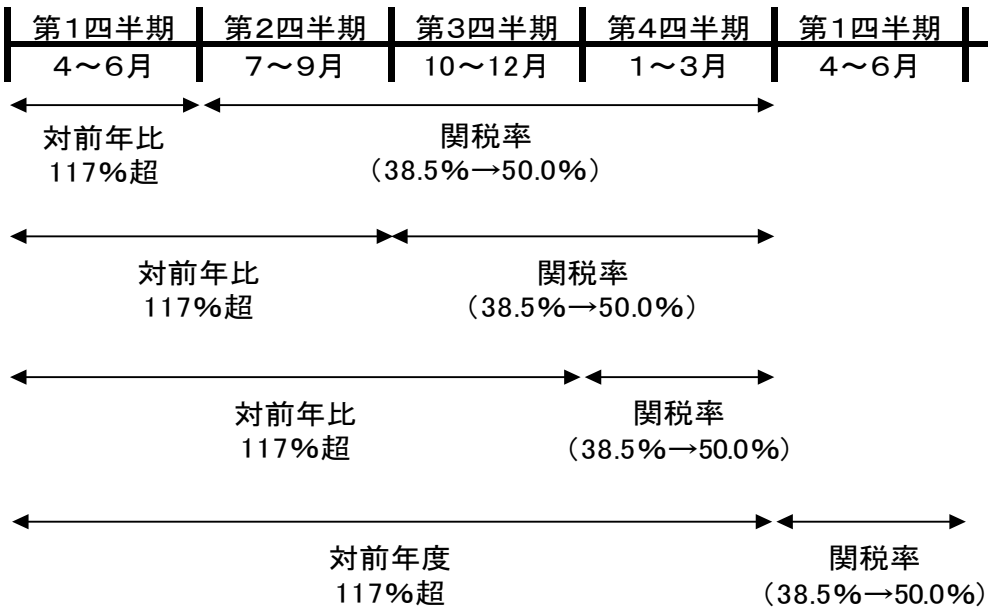
※ 米国でのBSE発生に伴う特例維持等の観点から、当該年度の全世界からの輸入実績が、全世界の前年度の実績または平成14～15年度実績のうち高い方の117%より低い場合は、発動しない仕組みとなっている。

○ 牛肉の関税率

(単位: %)

年度 (西暦)	平成6 (1994)	7 (1995)	8 (1996)	9 (1997)	10 (1998)	11 (1999)	12 ~ 27 (2000 ~ 2015)
関税率	50.0	48.1	46.2	44.3	42.3	40.4	38.5

○ 緊急措置の発動例



(注) 実際の輸入と輸入統計公表までにはタイムラグ(約1か月)が存在するため、四半期当初からの発動とはならない場合がある。

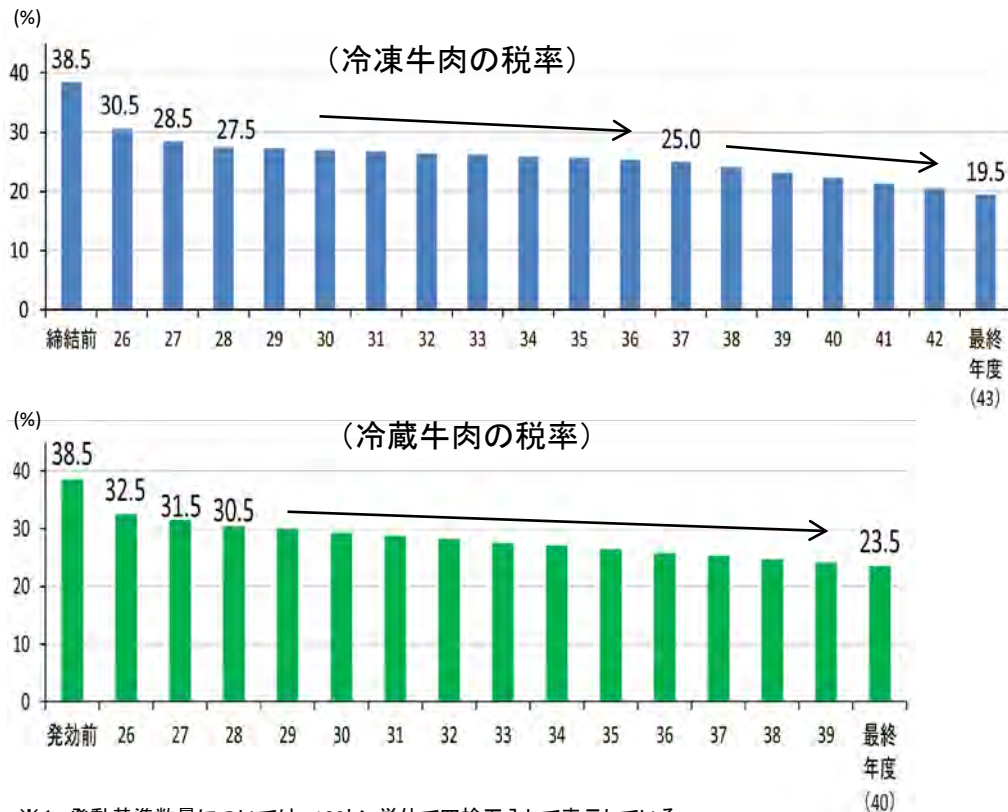
日豪EPAにおける牛肉分野の合意内容

豪側の要求： 現行税率(38.5%)の撤廃ないし大幅な削減

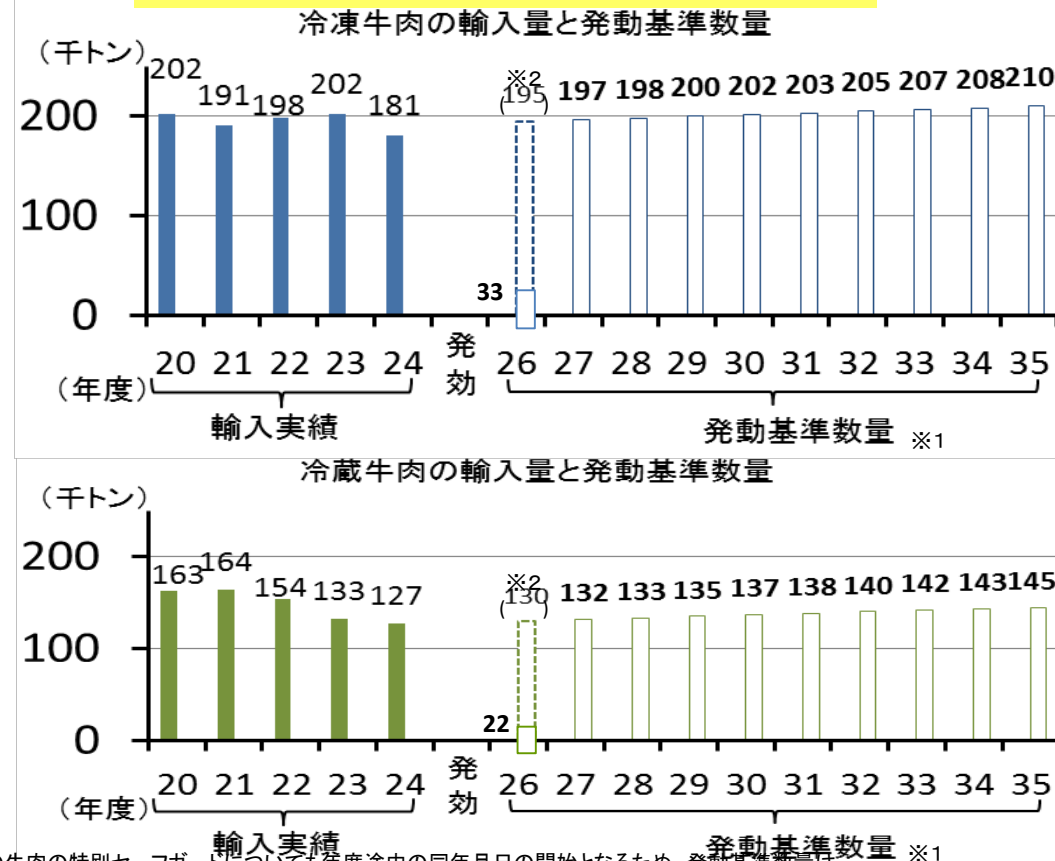
合意内容： 段階的関税削減 (冷凍)18年目に19.5%まで削減(約5割削減)
(冷蔵)15年目に23.5%まで削減(約4割削減)

※ 豪州からの輸入量が発動基準数量を超えた場合に税率を38.5%に戻す数量セーフガードを導入。

関税率は長期間かけて段階的に削減



低税率の適用は、近年の輸入量程度が上限



※1 発動基準数量については、100トン単位で四捨五入して表示している。

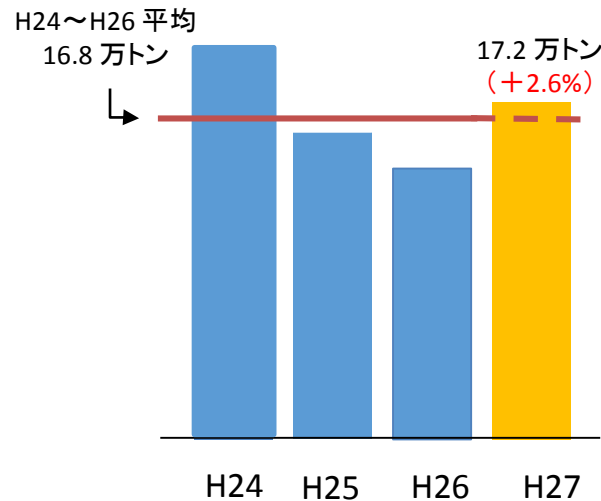
※2 日オーストラリア経済連携協定の発効が平成26年度途中の平成27年1月15日となることから、平成26年度の牛肉の特別セーフガードについても年度途中の同年月日の開始となるため、発動基準数量は、同協定附属書に基づき、残余の完全な月数で按分され、(同協定附属書で決められた発動基準数量)÷12ヶ月×2ヶ月(端数は四捨五入)となる。

日豪EPA発効後（平成27年1月～7月）の牛肉需給動向を過去3年間（平成24年～26年）の同時期の動向と比較すると、以下の通り、国産牛肉との関係で、**特段の影響はみられない**と考えられる。

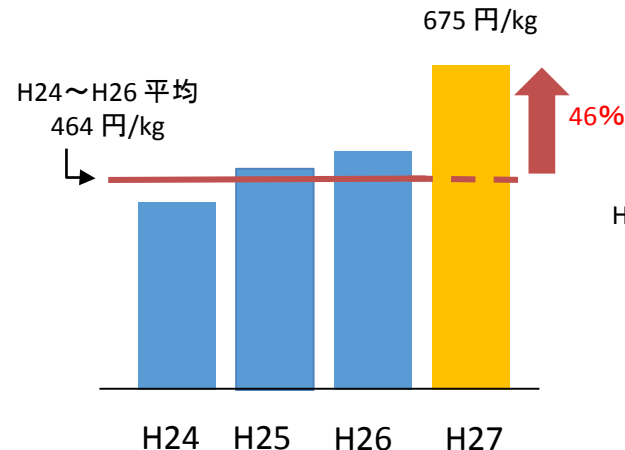
- ① 牛肉輸入量は、豪州産は2.6%増加したが、全体では2.1%減少
- ② 牛肉の輸入単価は、輸入全体、豪州産とも45～46%上昇
- ③ 国産牛肉の卸売価格は30～64%上昇

○平成27年1月～7月と平成24年～26年1月～7月の比較

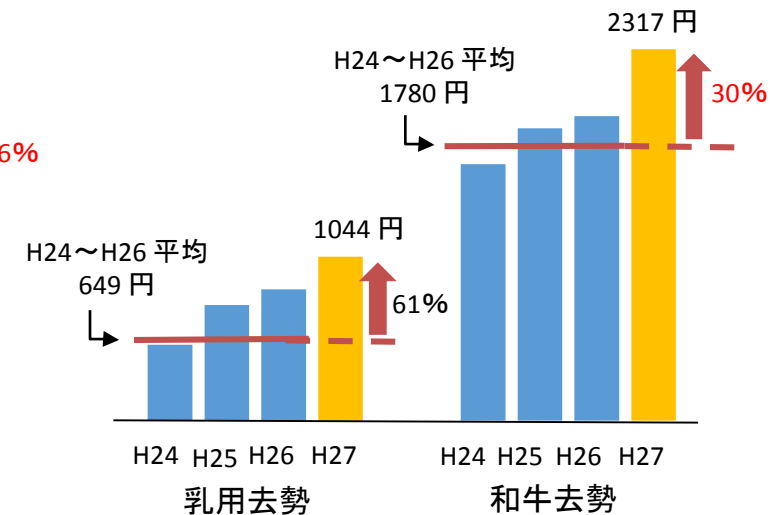
①豪州産牛肉輸入量



②豪州産牛肉輸入単価



③国産牛肉卸売価格



〔参考：輸入全体〕

H24～H26 平均 29.6 万トン
 2.1%減少
 H27 28.9 万トン

〔参考：輸入全体〕

H24～H26 平均 488 円/kg
 45%上昇
 H27 706 円/kg

〔参考：乳用めす〕

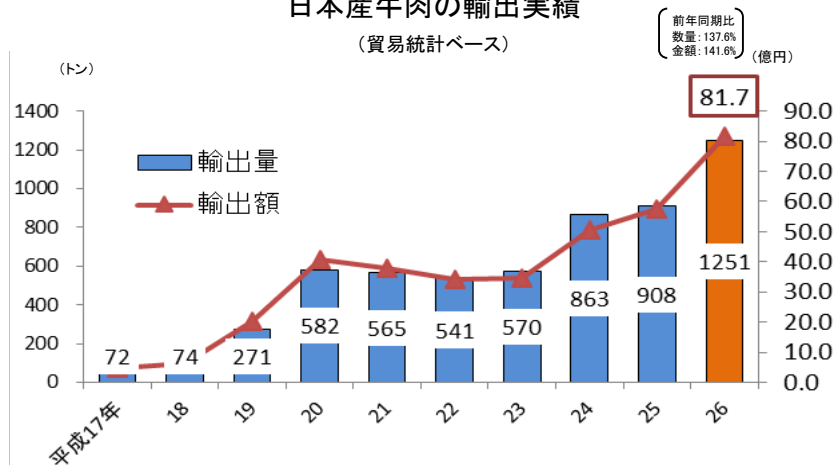
H24～H26 平均 446 円/kg
 64%上昇
 H27 732 円/kg

国産牛肉の輸出について

- 平成17年12月に、我が国におけるBSE発生を理由に輸出が停止していた米国及びカナダ向け輸出が再開。その後、香港等にも輸出が可能になり、平成19年から輸出が本格化。
- 我が国における口蹄疫発生、福島第一原子力発電所事故の影響により輸出が一時停止したこと等から、平成20年から23年の輸出は横ばいで推移していたが、平成24年は8月に対米輸出が再開し、好調に推移したことから過去最高を更新。
- 平成26年の輸出実績は、これまでのプロモーションの効果に加え、EU向け輸出等が解禁されたことから、82億円(1251トン)と3年連続で過去最高を更新。
- 市場の大きい米国やEUで重点的に牛肉輸出拡大に努めていくこととしており、平成26年12月には、オールジャパンで牛肉等の輸出促進に取り組む日本畜産物輸出促進協議会が設立されたところ。

日本産牛肉の輸出実績

(貿易統計ベース)



輸出国別の施設認定状況

H27.8 現在

	米国	カナダ	メキシコ	EU	ロシア・ベラルーシ	NZ	香港	UAE	カタール	バーレーン	シンガポール	フィリピン	マカオ	タイ	ベトナム	インドネシア
施設数	9	7	7	4	2	10	10	2	2	2	10	6	56	50	55	1

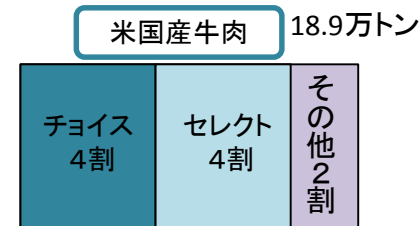
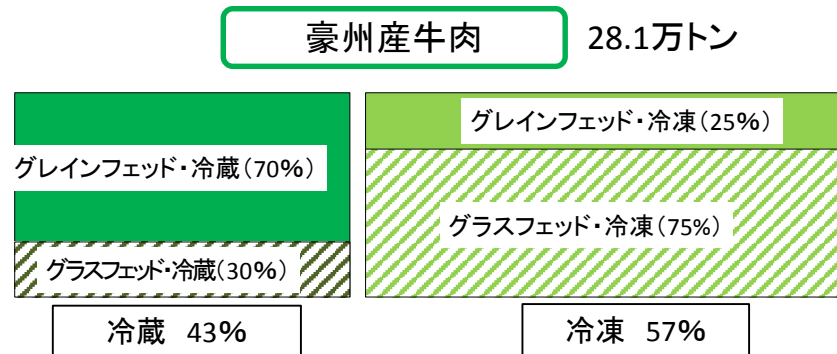
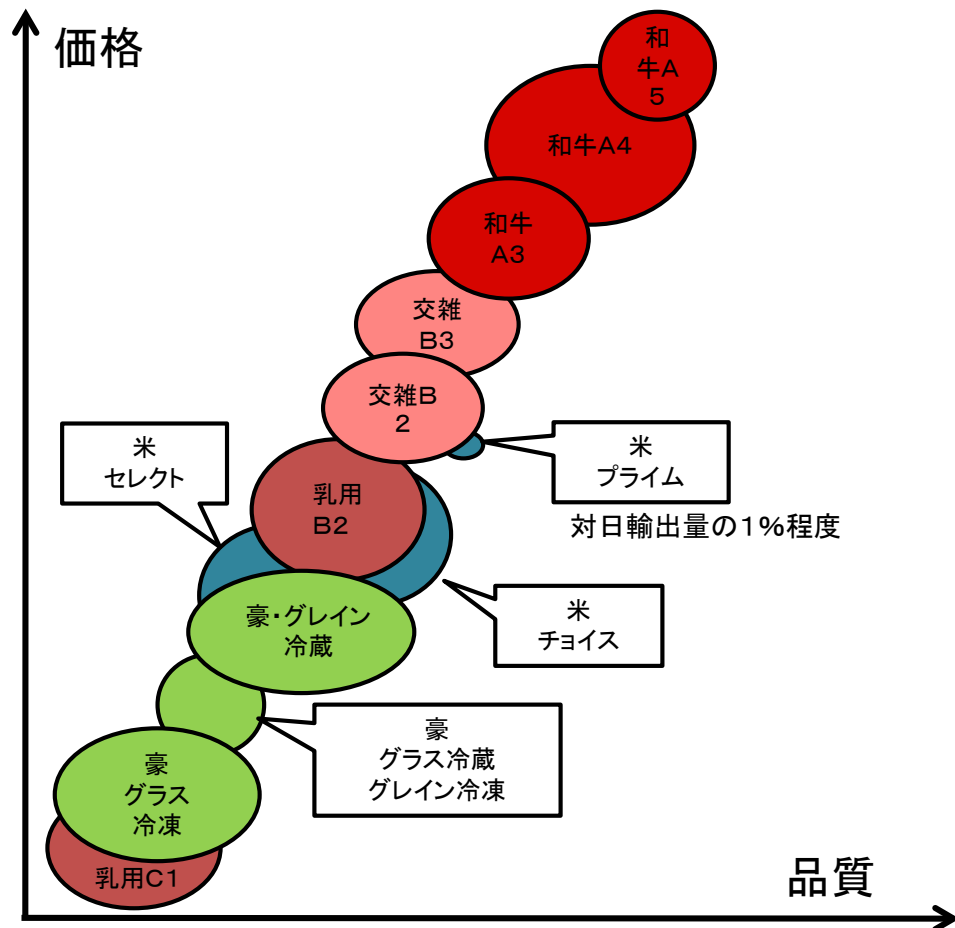
(牛肉)	衛生条件***	関税率	枠数量	H26輸出量(トン)	H26輸出額(億円)
米国	あり	(枠内) 4.4 ¢ / kg (枠外) 26.4%	200トン (国別)	153.0	12.5
カナダ	あり	(枠内) 0% (枠外) 26.5%	11809トン (WTO)	8.0	0.7
メキシコ	あり	(枠内) 冷蔵16% *** 冷凍20%	6000トン (国別)	1.2	0.1
チリ	協議中	(枠内) *** 4.8% (枠外) 6.0%	4000トン (国別)	-	-
ペルー	協議中	11%	-	-	-
豪州	協議中	0%	-	-	-
NZ	あり	0%	-	1.6	0.1
ベトナム	あり	(EPA適用) *** 10% (非適用) 20%	-	11.3	0.7
マレーシア	協議中	0%	-	-	-
シンガポール	あり	0%	-	122.8	7.4
ブルネイ	協議中	0%	-	-	-
TPP計				297.8	21.5
全世界				1251.3	81.7

※平成27年度時点での既決EPAにおける税率
※※平成27年7月21日現在の状況

※※(枠外)冷蔵20%、冷凍25%

牛肉の品質・価格について

- 和牛・交雑種牛肉は、品質・価格面で輸入牛肉と差別化されており、競合の度合いは小さい。
- 乳用種(ホルスタイン種)牛肉は、
 - ① B2が米国産を中心に競合。
 - ② C1(主に廃用牛)が豪州産冷凍グラスフェッドを中心に競合。



資料: MLA、業界聞取り(米国産牛肉)
2014年次のデータ